

第58回 東京都公民館研修大会 第1回課題別集会  
「公民館にとってのオンラインとは」2022.1.26

# 社会教育アップデート2020 ～学びを拡張する公民館～



たま社会教育ネットワーク

井口啓太郎・石田智彦・伊藤隆志

鈴木孝志・萩元直樹・濱原幸恵

# Introduction

## たまた社会教育ネットワーク の紹介



**たま社会教育ネットワーク**（通称：たまいく）は、  
多摩地域の社会教育活性化に向けて自主研修会(モヤたま)や  
情報交換会を開催しているゆるいネットワークです。  
公民館や市民活動支援などを担当している自治体・官庁職員や、  
**民間の社会教育実践者**が多く集まっています。



主なメンバーの所属：

- ・ 青梅市
- ・ 小平市
- ・ 国立市
- ・ 国分寺市
- ・ 福生市
- ・ 昭島市
- ・ 八王子市 他



飲み会

や

MTG



オリパラの社会教育  
部会





ワークショップ  
シヨツプ







執筆

## 事例16 職員の自主的な学びのネットワーク 「たまいく」

### 1 たま社会教育ネットワーク

たま社会教育ネットワーク（以下「たまいく」）は、社会教育の活性化に向けたネットワークづくりと情報発信に取り組む、東京多摩地域の自治体職員有志を中心とした組織体である。これまで、自主研修会や情報交換会の開催、社会教育の実践に関する専門誌への連載などを通じて、緩やかなネットワークが構築されてきた。たまいくが誕生したきっかけは、2011年度に国立教育政策研究所社会教育実践研究センターで行われた社会教育主事講習である。多摩地域から参加していたメンバーの2人が出会い、社会教育をさらに盛り上げたいという思いで活動を始めた。現在では、中心的なメンバーとして多摩地域8市の自治体職員をはじめ、東京23区の社会教育関係者、民間企業に勤務しつつ、公民館での活動をライフワークとしている人など、幅広いネットワークが広がり、日常的に情報共有・意見交換を行っている。

たまいくでは、メンバー以外も含め、活動に関わってくれたすべての人が、そこで得た知識や経験、心境の変化を自分のフィールドに持ち帰り、それぞれの形で生かしてもらおうことをねらいの一つとしている。ここでは、たまいくの活動の中から、ネットワークを生かした取り組みの事例を紹介し、その取り組みがメンバーそれぞれの力量形成にどのような影響を与えてきたかを紹介したい。



たまいくミーティング

### 2 自主的ネットワークを生かした社会教育職員向け学習支援

たまいくでは、社会教育に関わる人が抱える悩みや不安など、どこかモヤモヤとした気持ちについて語り合うワークショップ（研修会）「モヤたまカフェ〜社会教育ってなんだらう〜」を自主的に開催してきた。効果的なチラシの作り

方や、担当する事業の課題点など、テーブルごとにテーマを設けてワールドカフェ方式で考えを深める研修会である。初めて公民館に配属されて何をしたらいいかわからないという人から、改めて社会教育とは何かについて考えたいという人まで、参加者の背景は様々である。しかし、自分の職場以外で社会教育について相談できる仲間がほしいという点は、みなに共通しているのではないだろうか。ワークショップを通じて多くの人と出会い、そこで生まれたつながりは、この自主研修会の大きな成果の一つであろう。



モヤたまカフェの様子

社会教育分野に限らず、自分の仕事や活動に対する意識を常に高く維持することはとても難しいことである。特に、正解が一つではなく、担当者やアイデア創造力が求められる社会教育の現場においては、自分が取り組んでいることが本当に正しいのか、自問自答を繰り返す職員も多い。モヤたまカフェの明確な答えが出るわけではないが、社会教育に対する悩みを共有する自身のモチベーションを高めることができる重要な場となっている。

### 3 社会教育の魅力発信に向けた取り組み

たまいくへの参加は自分自身のモチベーションを高めるだけでなく、取り組みが生まれる場にもなっている。特に、2016年度と2017年度で開催された「東京コンファレンス」への参加は、象徴的な事例であった。文部科学省委託事業「東京コンファレンス」は、東京大学が主催した学びのイベントで、東京各地で活動する職域職員の、社会教育活性化へとつながる機会となった。

たまいくは、実行委員会に組織として参加し、企画段階から連携して、「東京2020オリンピック・パラリンピック」として分科会を企画・運営した。オリンピック・パラリンピックやインクルージョン、サステイナビリティなど重要な考え方である。東京コンファレンスは、この結びつけて考える先駆的な機会となり、専門誌「

生涯学習支援の  
デザイン  
高井正 | 中村香 (編著)  
Tadashi Takai, Kaori Nakamura  
玉川大学出版部

SDG  
SEEN



# 2019年～2021年に開催される 国際メガ・スポーツイベントによる 社会教育の活性化

日本青年館『社会教育』にて  
2017年～2021年まで  
55月連載(終了)



連載 第10回 2019年～2021年に開催される国際メガ・スポーツイベントによる社会教育の活性化  
 文部科学省委託事業「東京コンファレンス」分科会より

**探求** **社会教育活性化に向けた**  
**メガスポーツイベントの可能性**  
**RIO2016 → TOKYO2020 ← PARIS2024** **前編**

石田智彦（国分寺市立木公民館）、伊藤隆志（小平市中央公民館）  
 中田智久（東京2020組織委員会派遣）、萩元直樹（小平市文化スポーツ課）

Special Thanks 飯田一正（日野市中央公民館）

たま社会教育ネットワーク 紹介  
 東京都多摩地域から社会教育活性化に向けたネットワークづくりと情報発信に取り組み、自治体職員有志を中心とした会。ワークショップや情報交換会などを開催。  
 詳細・アクセスは右記WEBサイトから。http://tamoku.wixsite.com/tame-ku

連載 第15回 2019年～2021年に開催される国際メガ・スポーツイベントによる社会教育の活性化  
 ～リオ2016大会・平昌2018大会から学ぶ～  
**2年後の東京2020大会へ** **後編**

たま社会教育ネットワーク 萩元直樹（小平市文化スポーツ課）

たま社会教育ネットワーク 紹介  
 東京都多摩地域から社会教育活性化に向けたネットワークづくりと情報発信に取り組み、自治体職員有志を中心とした会。ワークショップや情報交換会などを開催。  
 詳細・アクセスは右記WEBサイトから。http://tamoku.wixsite.com/tame-ku

連載 第19回 2019年～2021年に開催される国際メガ・スポーツイベントによる社会教育の活性化  
 ～東京2020オリンピック・パラリンピックから学ぶ～

**イベントのダイバーシティ&インクルージョン**

たま社会教育ネットワーク 石田 智之 伊藤 隆志 梶 芳久 美子 鈴木 孝志  
 中田 智久 萩元 直樹 濱原 幸恵 Special thanks KENGO.T

たま社会教育ネットワーク 紹介  
 東京都多摩地域から社会教育活性化に向けたネットワークづくりと情報発信に取り組み、自治体職員有志を中心とした会。ワークショップや情報交換会などを開催。  
 詳細・アクセスは右記WEBサイトから。http://tamoku.wixsite.com/tame-ku

近年のオリンピック・パラリンピックの三大キーワード「レガシー」「サステナビリティ」そして、「ダイバーシティ&インクルージョン」。連載第17回に続いて、この三大キーワードを地域にいかにか活かしていくかという課題について、たまたいで2日に及ぶ座談会を開催することとなった。

連載 第21回 2019年～2021年に開催される国際メガ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

**社会教育とレガシー** **vol.1**  
**SOCIAL EDUCATION & LEGACY**

たま社会教育ネットワーク 石田 智之 伊藤 隆志 梶 芳久 美子 鈴木 孝志 中田 智久 濱原 幸恵

たま社会教育ネットワーク 紹介  
 東京都多摩地域から社会教育活性化に向けたネットワークづくりと情報発信に取り組み、自治体職員有志を中心とした会。ワークショップや情報交換会などを開催。  
 詳細・アクセスは右記WEBサイトから。http://tamoku.wixsite.com/tame-ku

連載第17回・19回に続いて、近年のオリンピック・パラリンピックの三大キーワード「レガシー」「サステナビリティ」「ダイバーシティ&インクルージョン」に社会教育の視点から迫るシリーズ。今回、レガシーを社会教育でどのように捉え、取組にどう活かしていくかという課題について、座談会を開催することとなった。

連載 第24回 2019年～2021年に開催される国際メガ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

**復興五輪**

社会教育の立場からの東京2020大会における「被災地復興」再考

たま社会教育ネットワーク 萩元 直樹（小平市）

たま社会教育ネットワーク 紹介  
 東京都多摩地域から社会教育活性化に向けたネットワークづくりと情報発信に取り組み、自治体職員有志を中心とした会。ワークショップや情報交換会などを開催。  
 詳細・アクセスは右記WEBサイトから。http://tamoku.wixsite.com/tame-ku

連載 第25回 2019年～2021年に開催される国際メガ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

観光立国や入国法改正により訪日外国人、在日外国人がこれまで以上に増え、いっよ日本社会に、相互理解の促進と言葉の壁による困難の解消が必要だ。

**やさしい日本語** **多言語音声翻訳**

**多文化共生** **観光・おもてなし**

たま社会教育ネットワーク 萩元 直樹（小平市）

協力：やさしい日本語ツーリズム研究会 事務局長 吉岡 幸（株式会社電通）

たま社会教育ネットワーク 紹介  
 東京都多摩地域から社会教育活性化に向けたネットワークづくりと情報発信に取り組み、自治体職員有志を中心とした会。ワークショップや情報交換会などを開催。  
 詳細・アクセスは右記WEBサイトから。http://tamoku.wixsite.com/tame-ku

連載 第31回 2019年～2021年に開催される国際メガ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

東京2020参画プログラム Official Programme  
**やさしい日本語×多言語音声翻訳で**  
**国際交流プロジェクト** **実践編**

文責 たま社会教育ネットワーク 石田 智之 濱原 幸恵  
 企画・運営 福生市公民館松林分館 島田 基美香  
 講座講師 たま社会教育ネットワーク 萩元 直樹  
 特別協力 やさしい日本語ツーリズム研究会 事務局長 吉岡 幸（株式会社電通）

連載 第32回 2019年～2021年に開催される国際メガ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

**HERE COMES THE 2020**  
**2020年を楽しむ講座企画**  
**ピントレーディングで国際交流**

たま社会教育ネットワーク 石田 智之・萩元 直樹

たま社会教育ネットワーク 紹介  
 東京都多摩地域から社会教育活性化に向けたネットワークづくりと情報発信に取り組み、自治体職員有志を中心とした会。ワークショップや情報交換会などを開催。  
 詳細・アクセスは右記WEBサイトから。http://tamoku.wixsite.com/tame-ku

連載 第33回 2019年～2021年に開催される国際メダ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

# スポーツイベントにおける 障害者の就労体験プロジェクト —「混ざり合い」が生む「学び」とは—

たま社会教育ネットワーク 井口 啓太郎 (文部科学省障害者学芸支援推進室)  
NPO 法人ピープルデザイン研究所 田中 真宏

連載 第34回 2019年～2021年に開催される国際メダ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

# 食の多様性への配慮

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて  
ベジタリアン・ヴィーガン・ハラール・アレルギーetcを学ぼう

たま社会教育ネットワーク 萩元 直樹

連載 第36回 2019年～2021年に開催される国際メダ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

# 2021年に向けて オリンピック・パラリンピックによる 社会教育の活性化

たま社会教育ネットワーク 萩元 直樹

連載 第38回 2019年～2021年に開催される国際メダ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

COVID-19流行による緊急事態宣言中 オンライン座談会

# 社会教育アップデート2020

緊急事態宣言が解除され、社会教育活動の再開に向けて迷いや焦りが懸念される時期ですが、私達自身も迷いながらも活用されるオンラインツール等を活用して、今まで以上に多様な方々と共に活動を目指している方法を前向きに考えています。今回は、まだ緊急事態宣言期間中の2020年5月10日、たまたまく内で実施したオンライン座談会の様子を漫画形式でお伝えします。日本の元氣は地域の元氣から！みんなで、活気ある社会教育を再び目指しましょう！

たま社会教育ネットワーク  
石田 智彦・伊藤 隆志・梶原 久美子・鎌田 哲弥・鈴木 幸志・中田 智久・萩元 直樹

連載 第40回 2019年～2021年に開催される国際メダ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

# 東京2020大会から学ぶ 地域価値の創造と情報発信 ～サステナブルな観光まちづくり～

たま社会教育ネットワーク 萩元 直樹

後編

連載 第43回 2019年～2021年に開催される国際メダ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

Physical Distancing



No Distance

# オンライン座談会 地域イベントにおける 新型コロナウイルス感染症対策 後編

～ディスタンスを保ちながらソーシャルにつながるために～

たま社会教育ネットワーク 石田 智彦・鎌田 哲弥・萩元 直樹・濱原 幸志

連載 第41回 2019年～2021年に開催される国際メダ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

ケーススタディ vol.6

# 東京2020大会をきっかけとした コミュニティデザイン ～東京都八王子市南大沢地区の実践～

たま社会教育ネットワーク 鎌田 哲弥

連載 第48回 2019年～2021年に開催される国際メダ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

編集部×たまたまく協働企画オンライン座談会 vol.2

# オリンピズムと東京2020大会 前編 GET BACK TO THE OLYMPIC CHARTER 2 Months To Go!

たま社会教育ネットワーク 石田 智彦・伊藤 隆志・梶原 久美子・萩元 直樹・濱原 幸志  
日本青年館 社会教育編集部 近藤 真司  
上智大学名誉教授 前スポーツ庁参事 師岡 文男 (特別協力)

連載 第50回 2019年～2021年に開催される国際メダ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

# 東京2020大会開催直前企画 オリンピックの学び方ガイド

たま社会教育ネットワーク

連載 第52回 2019年～2021年に開催される国際メダ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

ケーススタディ  
vol.7

たま社会教育ネットワーク  
萩元 直樹



連載 第54回 2019年～2021年に開催される国際メダ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

# 東京2020大会を終えて 座談会 アフター東京2020

たま社会教育ネットワーク 石田 智彦・伊藤 隆志・鎌田 哲弥・萩元 直樹・濱原 幸志

たま社会教育ネットワーク 紹介

東京都多摩地域から社会教育活性化に向けたネットワークづくりと情報発信に取り組み、自治体職員有志の中心となり、ワークショップや情報交換会などを開催。詳細・アクセス・講演等の依頼は下記Webサイトへ、  
http://tamaku.wixsite.com/tamaku



# Re:Design 社会教育

日本青年館『社会教育』にて  
2019年より不定期連載中



受賞

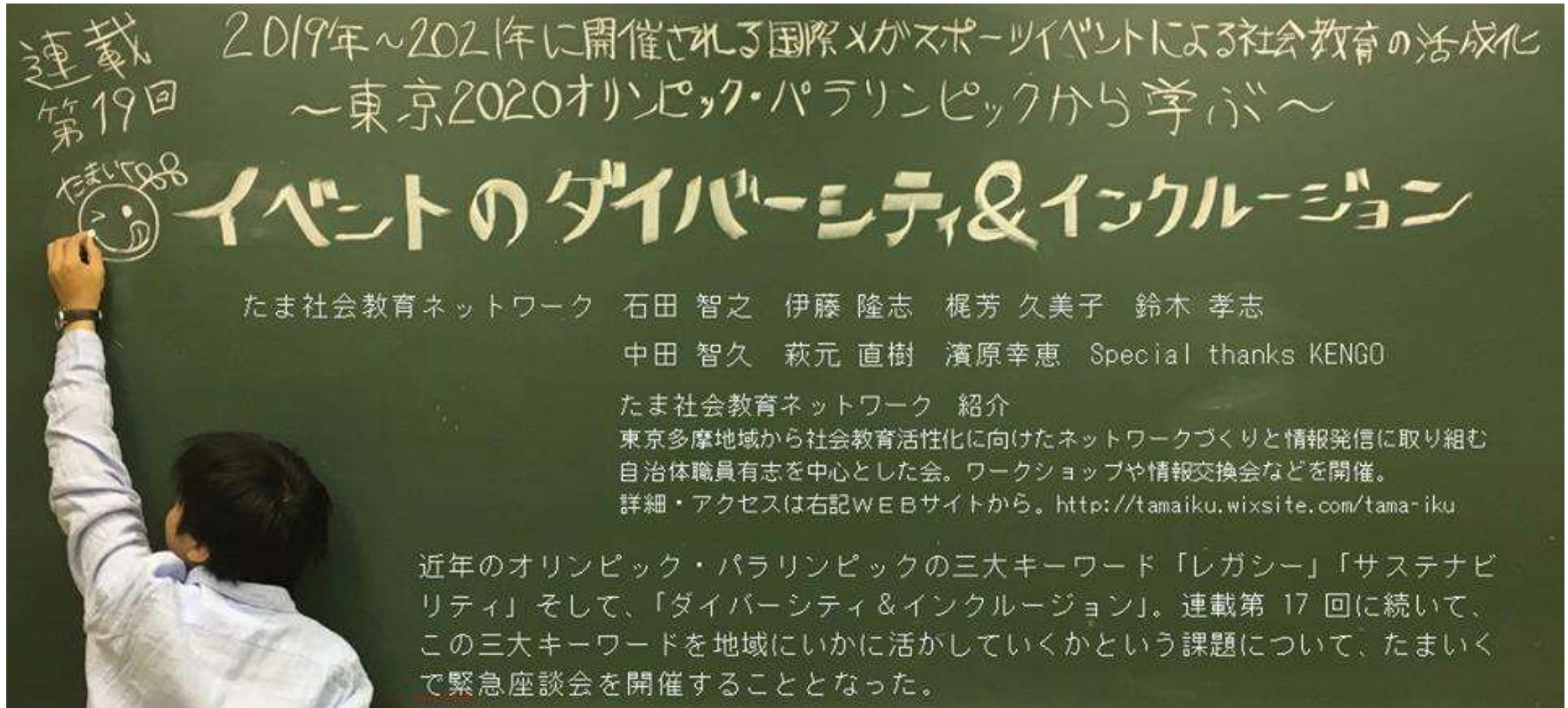
# JAPAN SOCIAL EDUCATION AWARDS 2018

最多得票でイノベーション賞 受賞



Social Education  
Awards 2018  
-Innovation-

# JAPAN SOCIAL EDUCATION AWARDS 2018



連載  
第19回  
たまいく

2019年~2021年に開催される国際メカスポーツイベントによる社会教育の活性化  
~東京2020オリンピック・パラリンピックから学ぶ~

## イベントのダイバーシティ&インクルージョン

たま社会教育ネットワーク 石田 智之 伊藤 隆志 梶 芳 久美子 鈴木 孝志  
中田 智久 萩元 直樹 濱原幸恵 Special thanks KENGO

たま社会教育ネットワーク 紹介  
東京多摩地域から社会教育活性化に向けたネットワークづくりと情報発信に取り組む自治体職員有志を中心とした会。ワークショップや情報交換会などを開催。  
詳細・アクセスは右記WEBサイトから。http://tamaiku.wixsite.com/tama-iku

近年のオリンピック・パラリンピックの三大キーワード「レガシー」「サステナビリティ」そして、「ダイバーシティ&インクルージョン」。連載第17回に続いて、この三大キーワードを地域にいかにか活かしていくかという課題について、たまいくで緊急座談会を開催することとなった。

得票2位でグッド・アーティクル賞 受賞



社会教育の  
Re:Design

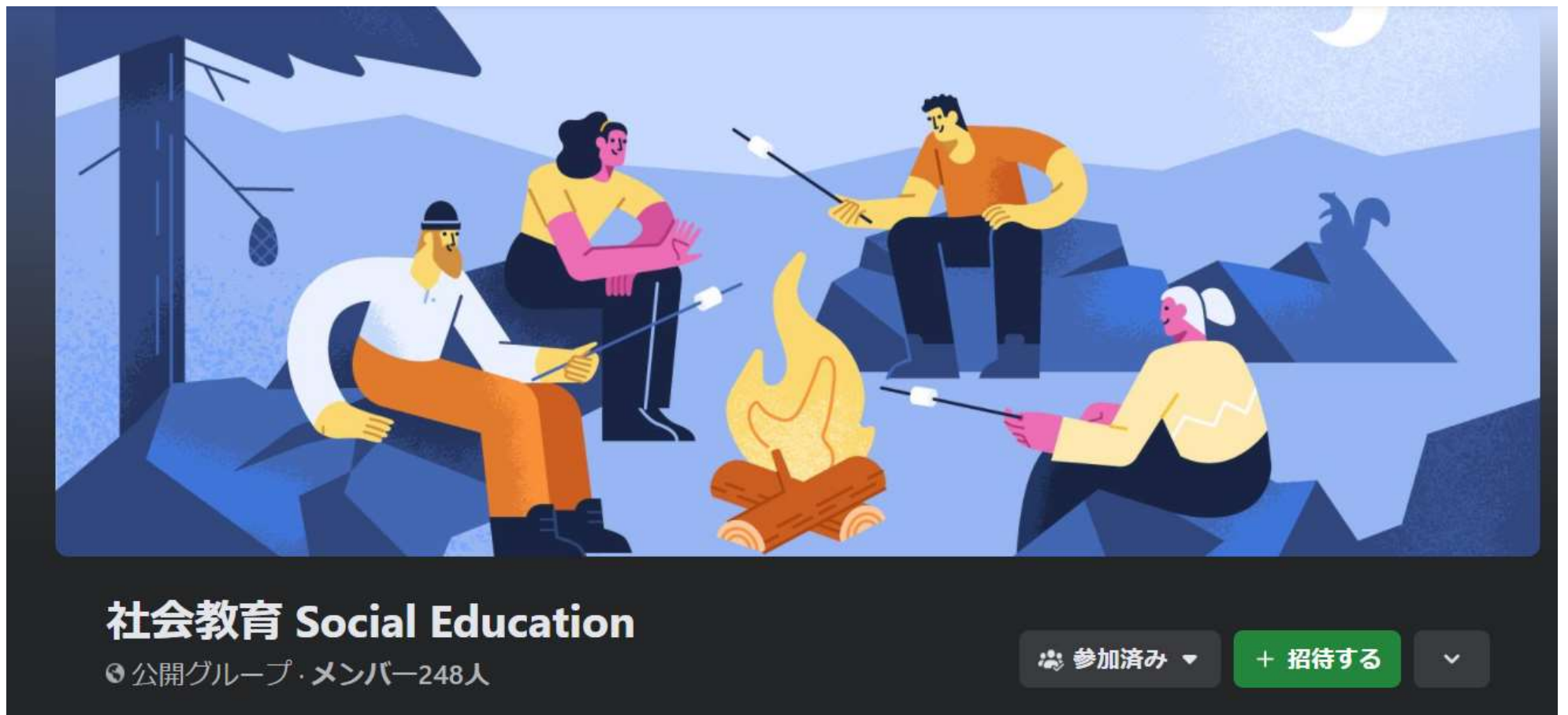
# JAPAN SOCIAL EDUCATION AWARDS 2019

— 読者が決める専門誌『社会教育』のWEB総選挙 —



主催

一般財団法人日本青年館「社会教育」編集部  
ジャパン・ソーシャル・エデュケーション・アワーズ2019実行委員会



主催イベントにて、Facebookの  
コミュニティページの提案をうけ、  
社会教育 Social Education を開設





ホーム  
ページ

全然更新できていませんが・・・  
ぜひ、見てみてください(^^)/  
「たま社会教育ネットワーク」で検索



たまいく  
**たまいく**

たま社会教育ネットワーク公式ホームページ

T たま  
S 社会教育  
N ネットワーク

“多摩地域の社会教育に関心のある仲間の輪”

Mail:tamaikunet@gmail.com

HOME

ABOUT US

EVENT

PROJECT

ARCHIVE







登壇者の  
紹介

# 自己紹介(1) 石田 智彦(国分寺市)

国際化・多文化共生

**TOKYO KOKUBUNJI CITY "4 piece for peace pins"**

- Trung tâm Tokyo  
Nếu bạn có gắng cân bằng Tokyo ở một đêm, Kokubunji là trung tâm.
- Tháp bảy tầng  
Mô là biểu tượng của Musashi kokubunji. Người ta có thành thờ trong tháp và trên đỉnh, nhưng trong 225 họ đã bị đốt cháy bởi một đêm cháy.
- Tên lửa bút chì  
Lần đầu tiên ở Nhật Bản, một cuộc thử nghiệm phóng tên lửa theo phương ngang đã được tiến hành ở thành phố Kokubunji.  
Tên lửa dài 23 cm và được gọi là Tên lửa bút chì.
- shinkansen  
Có Văn phòng cứu Kỹ thuật Đường sắt, nơi phát triển tàu Shinkansen đầu tiên ở Nhật Bản. Khu vực đất viên nghiên cứu được đặt tên là "Hikaricho" theo tên của tàu Shinkansen.  
Ý nghĩa của "HIKARI" có nghĩa là ánh sáng.
- Musashi Kokubunji (武蔵国分寺)  
Nhiều người đã chết trong thế kỷ thứ 8 do nạn đói và các bệnh truyền nhiễm.  
Hoàng đế Shomu đã xây dựng một ngôi đền để cầu nguyện cho hòa bình của đất nước.  
Tàn tích của ngôi đền nằm trong thành phố, và ba hoa văn tròn trên huy hiệu gồm tượng trưng cho những viên gạch được khai quật từ đồng đô này.
- Nước suối trên Otaka no Michi  
Đây là nơi mà gia đình Tokugawa, người là người cai trị của Nhật Bản 400 năm trước, sử dụng để rửa đầu để tắm.  
Nước suối sinh động đã mọc lên, và bây giờ nó là nơi thờ phụng của người dân.

障がいのある人への学びの支援



地域活動(ボッチャ)



# 自己紹介(2) 鈴木 孝志(青梅市・文部科学省)

青梅市 社会教育・市民活動推進



文部科学省 障害者の生涯学習の推進



障害者の生涯学習の未来を創造する  
- 「学び」を通じた共生社会の新たな発展 -

令和3年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス  
関東甲信越ブロック

日時 2022年 2月 26日【土】  
午前10時-午後4時15分  
場所 東京都国分寺市本多公民館  
ZOOMでの参加も可能

（詳細は1月上旬に公開予定 文部科学省ホームページ「令和3年度共に学び、生きる共生社会コンファレンス」参照）

### コンファレンスプログラム（予定）

基調講演	分科会
<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習を履修する障害児者の学びの意義 ・青年学級などの展開から</li> <li>講師：宮崎 英彦（東洋大学名誉教授）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の支援者を確保するために</li> <li>特別支援学校における生涯学習を見据えた実践と地域とのつながり</li> <li>社会教育だからこそできる障がい者青年学級</li> <li>カフェを介した「地域共生」の実践</li> </ul>

当事者の声を聴こう！

- 関東甲信越地域の「学ぶ」当事者からの声を紹介します

主催：一般社団法人みんなの大学校 国分寺市教育委員会 文部科学省

生まれ育った地域での活動

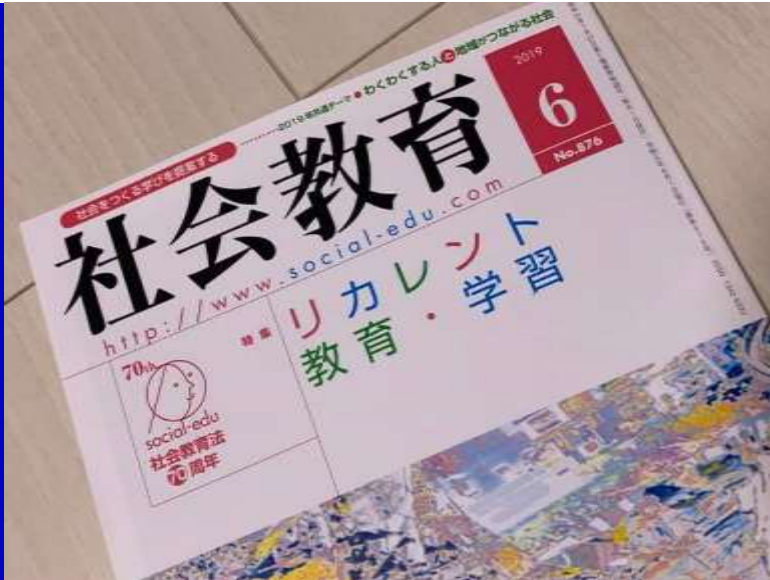


# 自己紹介(3) 萩元 直樹(小平市・東京都・東京2020組織委員会・現在起業準備中)

ワークショップ



連載・論文執筆

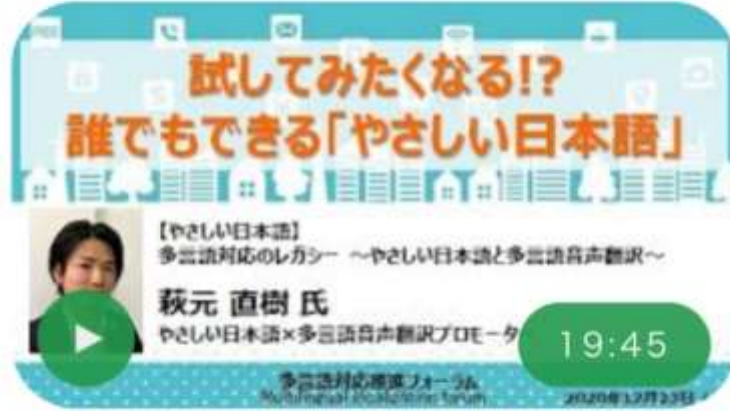


講演活動 (「東京動画」にも掲載)



## 東京2020大会についての動画一覧

カテゴリで絞り込む



多言語対応推進フォーラム【セミナー：やさしい日本語】やさしい日本語×多言語音声翻訳プロモーター 萩元 直樹氏「多言語対応のレガシー～やさしい日本語と多言語音声翻訳」

文部科学省「社会教育士」プロモーション



【参考】萩元がお伝えできる分野のご紹介 よかったら、また呼んでください(^^)/

- ◆ まちづくり活動、社会教育、公民館、市民活動
- ◆ イベント学(プログラム作成・運営ノウハウ)
- ◆ コーディネート、コミュニティ活性化
- ◆ チラシ・ポスター作成 ◆ポータルランド
- ◆ 観光・おもてなし ◆ 多文化共生
- ◆ 多言語対応 ◆SDGs ◆サステナビリティ
- ◆ TOKYO2020スタンダード

…などなど

# プログラム 1

たまたいくの  
オンラインの取組  
(概要)

たまたまいくでは、  
これまで定期的に  
自主研修会を実施  
(通称:モヤたま)

# モヤたまとは…？

(=社会教育のモヤモヤをたまのみんなで考えよう)

社会教育に携わる人が抱える悩み  
や不安など、どこか「モヤモヤした  
気持ち」を題材に語り合うワーク  
シヨツプ



例えば…

- 初めて公民館に配属されて  
何をしていたかわからない！
- 効果的なチラシの作り方とは？
- 結局社会教育ってなんだろう？

ワークショップを通じて得る  
自分自身の気づきと、  
そこで出会い、  
生まれたつながりを  
大事にしています。

**モヤ  
たま  
Cafe  
Vol.2** **社会教育のモヤモヤを  
たまのみんなで考えよう**

色んな人が参加したくなる  
広報って何があるのかな？

みんなの  
やる気スイッチ  
ってどこにある？！

多様な利用者が集える  
公民館って  
どんなところだろう？

このモヤモヤ  
スッキリ  
したい！

こんな思いを持つ方にぴったりの、『ゆる〜い勉強会』です。  
お茶をのみながら、アレコレ話してみませんか？

会場：国立市公民館 地下ホール  
対象：社会教育・公民館等に携わる方  
費用：100円(茶菓子代)  
定員：20名(先着)  
**終了後の懇親会にもぜひご参加ください！**

★紹介したい事業のチラシ等  
ありましたらぜひお持ちください！

**5月31日(日)**  
午後 2:00~4:30

みんなのもやもやを共有する〜World Cafe〜  
今回の勉強会では、普段は話せないような社会教育に関する悩み、思っていることなどを  
ワールドカフェ形式で話し合います。  
社会教育・公民館関係のいろいろな方と知り合えるチャンスです！  
みなさんの参加をお待ちしています！

申し込み：たまいくのアドレスへ申し込み！[tamaikunet@gmail.com](mailto:tamaikunet@gmail.com)  
氏名・所属・連絡先・懇親会参加の有無をお知らせください

たま社会教育ネットワーク(通称：たまいく)とは？  
多摩の社会教育関係者のネットワークづくりを目的に2012年発足。  
多摩各市の職員が企画・運営しています。

MOYA  
TAMA

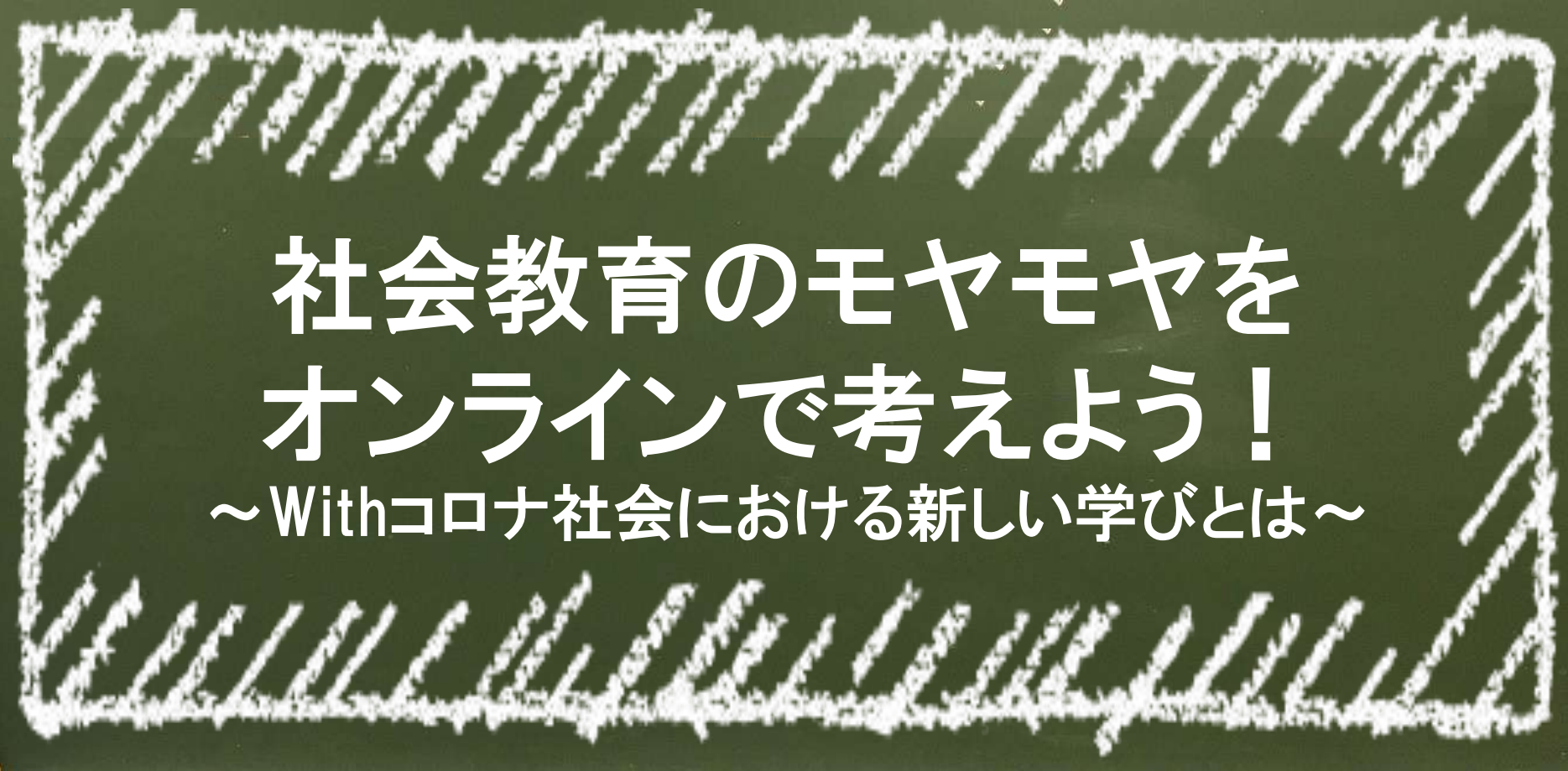
主催：たま社会教育ネットワーク

令和2年3月に開催を予定



新型コロナウイルス感染症の  
拡大により**急遽中止**に

このまま開催を諦める  
ことに対して  
たまいくメンバーにも  
モヤモヤが...



# 社会教育のモヤモヤを オンラインで考えよう！

～Withコロナ社会における新しい学びとは～

■2020年6月28日(日)10:00～12:30 Zoom

■参加者:全国各地から21名(ゲスト含む)

■コンテンツ:

アイスブレイク・ゲストトーク・対話ワークなど



**『社会教育』  
2020年6月号**

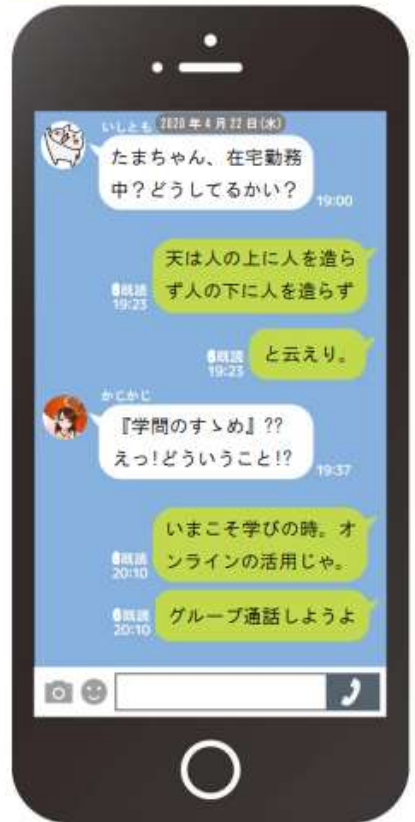
COVID-19流行による緊急事態宣言期間中 オンライン座談会

# オンライン活用のすゝめ

たま社会教育ネットワーク  
井口 啓太郎・石田 智彦・梶芳 久美子・鈴木 孝志・萩元 直樹・濱原 幸恵

## たま社会教育ネットワーク 紹介

東京多摩地域から社会教育活性化に向けたネットワークづくりと情報発信に取り組み自治体職員有志を中心とした会。ワークショップや情報交換会などを開催。詳細・アクセス・講演等の依頼は下記WEBサイトから。  
<http://tamaiku.wixsite.com/tama-iku>



**たま** もしもし、つながつている？

**石田** いま、ログインしました。

**萩元** たまちゃん、石田さん、こんにちは。

**濱原** やっほー!! 濱原です！

**たま** おつ、濱原さん、こんにちはは。えつと、井口さん、鈴木くん、梶芳さんがまだ入っていないかな。

**石田** あつ、井口さんが来ましたね！

**井口** もしもし、聞こえてますか？ 井口です。お疲れさまです。

**濱原** 井口さん、聞こえていますよ！

**鈴木** すみません。遅くなりました。鈴木です。よろしくお話しします。

**たま** あとは、梶芳さんを待とう。

**梶芳** お疲れさまです。梶芳です。PCから入りました。皆さん、お待たせしました！

**たま** いつも使っているこのSNSにも「グループ通話」の機能があって便利だね！

**萩元** この機能は使ったことなかったなあ。

**井口** たまちゃん、呼びかけてくれてありがとう。意外と音質もクリアだね。

**梶芳** 新年度に入って職場が異動になってバタバタでした。不要不急の外出は自粛で、みんなとしばらく会えなかったから、こうしてオンラインで話しかけるのはいいですね！

**たま** うん、呼びかけて良かったあ。ぼくもみんながこの緊急事態にどうしているか気になってたんだ。ずっと在宅勤務でまいっちやうよね。

**濱原** たしかに、改めて人と人とのつながり大切さを感じるよね。

**鈴木** そうですね。本当にそう思います。

**社会教育の現状**  
**たま** 社会教育の現場も大変な状況だね。みんなどうしてる？

**石田** 私のところは、東京2020オリンピック・パラリンピック（以下、東京2020大会）に向けた講座を含め、2月～3月に実施予定だった講座が中止となりました。その講座『社会教育』2020年1月号掲載は受講者からの熱意も濃かったため、まだ東京2020大会の延期が発表される前だったため翌年度すぐに開講できるよう、4月の公民館日より（市報）に掲載しました。しかし、4月7日の緊急事態宣言を受けて、また中止となってしまいました。

**濱原** 2回目の中止は辛いですね。状況が日に日に変化していたし、先が全く読めなかったよね。私の勤務先の公民館も、市の公共施設の中では最後まで開館していたけれど、今は5月6日まで休館。主催講座もいつから再開できるのか、まだまだ分からないし。

**たま** 今の状況を見ると、とてもGW明けに緊急事態宣言が解除されてすぐに通常通りということは考えづらいよね。希望的観測で6月から再開したとしても、広報の関係から事業開始は8月くらいになるのかなあ…  
**濱原** うーん、今の事業計画の半分くらい実施できるかどうか。もしかしたら、上半期は

全滅で、最悪の場合、1年間事業ができない可能性もゼロではないという覚悟が必要かもしれない。

**梶芳** 私の市でも5月10日まで公共施設は利用中止になっています。どこでもイベントの自粛と施設の休館の状況ですね。

**石田** 公民館が休館となった時は、日ごろ利用されているサークルの代表者の方や講座受講中の方々にも一人一人電話をしたり、いろいろな対応に追われましたね。

**鈴木** 各地で東京2020大会に向けての準備も大詰めを迎えていたと思うし、2020年度は特に力を入れた事業を計画していたと思うけど、どれも延期や中止になってしまいましたね。何より、人々の健康が大事ですが、ここまで気運を盛り上げてきて、いよいよというところだっただけにショックでした。

**石田** でも、私なんかは、東京2020大会までもう1年の時間ができたので、さらに活動をパワーアップさせるチャンスだと前向きに捉えています。

**たま** それはいい心持ちだね！ あと、講座の延期や中止って、講師の方をはじめ学習支援者の皆さんとの調整も大変だね。

**濱原** やっばり、講師の方との関係性にもよるよね。関係の深い方だと、延期、また延期…とお願ひできるけれど、初めてお願ひした

方だと、なかなか遠慮してしまうよね。  
**萩元** 僕も東京2020大会前ということですが、ありがたいことに「次回ぜひ！」と「延期」の声をいただきました。依頼を受けたからには準備を進めてきたので、「中止」となると悲しいですが、前向きな延期の声は嬉しいですし救われますね。

**井口** 私も今年度から大学の講義をコマ持っているのですが、教室で授業を進められない状況が続く、ビデオ通話などのオンラインサービス活用の必要性を感じていますね。いま、オンラインのツールについて、いろいろ調べています。

**実際に人が集えないときの社会教育**  
**たま** 大変な状況だね。いつでもどこでも、だれでも学ぶことができる生涯学習社会において、公民館は人が集い、その中で学び合い、つながりを結び、新たな価値を生む場として機能してきたけど、今回の新型コロナウイルス感染症で、公民館が一番大事にしてきた「人と人とのつながり」とか「顔の見える関係」といったことが奪われてしまっているよね。

**梶芳** 安全に対する担保がないと、開館することや人が実際に集う講座は再開できないからな。



**萩元** 安全対策はもちろんですが、再開後の社会教育のあり方について考えざるを得ないですね。

**石田** 事業の優先順位としては、安心・安全、健康、防災などの必要課題は市民の学習ニーズが高まるでしょうし、実際に取組が進むかと思えます。一方で今般の自粛ムードから、東京2020大会や観光、おもてなし系の事業には逆風が吹いている状態だと思います。しばらくは仕方ないことだと思いますが、こういう時だからこそ、公民館などの社会教育施設から呼びかけて、みんなと一緒に学ぶことが楽しいと感じるような取組も必要なのではないかと感じています。

**井口** その通りですね。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、不要不急の外出の自粛やいわゆる3密(密閉空間、密集場所、密接場面)を回避しようというだけで、楽しいことをしてはダメということではないはず。「自粛」することが気持ちまでを過剰に閉ざしてしまう現状に危機感を感じますね。

**鈴木** 今は何でも家で楽しむ、オンラインで楽しむ流れも見られますよね。事業実施の方法についても、新しいやり方を試すいい機会だと思います。サークルさんも普段の活動場所に実際に集って活動ができない間、家で何ができるか前向きに考えていくことで、サー

クル活動の可能性を発掘するチャンスですね。自分たちの活動の見直しもできますし。**梶芳** たとえば、手芸をやっているサークルさん、「何かやりたい」と思っている市民を後押しできるといいですね。**萩元** たとえば、自館のFace bookページがない場合、PCが得意なサークルにお願いしてページを作ってもらって、オンラインで情報交換できる仕組みをこの機会につくるとか？**石田** 公民館や図書館でYouTubeのチャンネルをこの機会に作ってみるのはどうでしょうか。でも、こういうSNSって公に作るとうまくいかないところですね。**濱原** あと、Web会議ツールを使って、オンラインお茶会を開くとか？ それだけでもみんなの様子も分かるし、気持ちのモヤモヤも少しは解消されるかも！**井口** 「オンライン○○」っていいですね!! 実際には集えなくてもつながり続ける方策は、こうして考えると次々にアイデアが出ますね。

るコロナエール(お互いを励まし合う)「教えてあげたいコロナチエ(工夫の紹介)」「まいにちいろいろイマコロナ(近況の報告)」というも募集していて、ネットを使えない人も問われる仕組みなのも素晴らしいよね。**萩元** 今のこの状況をシビアに考えると、2020年というタイミングで社会教育がアップデートされない、「社会教育は要らない」と捉えられてしまう恐れもあると思う。例えば、アフターコロナの社会における働き方は絶対に大きな変化があるはず。アフターコロナの社会における社会教育は今までのままなのか、5年後、10年後、30年後、50年後もこのままなのかって考えたときに、起点になるのは絶対に2020年じゃないかな。今後、社会教育の価値が絶対に問われるはず。**石田** オンライン飲み会やオンライン授業が流行っているけど、「オンライン公民館」を考えると、講座やサークル活動はできるし、既にこれまでに実践してきた公民館や図書館もありますよね。PCが無くてスマホの環境さえあれば、Skype、LINE、Face bookなどで、顔の見える環境でつながり合えますし。

**鈴木** 今回、今までの講座などの取組をしっかり映像化しておけば学習コンテンツになったの!!と痛感しました。今後は、イベント

クル活動の可能性を発掘するチャンスですね。自分たちの活動の見直しもできますし。**梶芳** たとえば、手芸をやっているサークルさん、「何かやりたい」と思っている市民を後押しできるといいですね。**萩元** たとえば、自館のFace bookページがない場合、PCが得意なサークルにお願いしてページを作ってもらって、オンラインで情報交換できる仕組みをこの機会につくるとか？**石田** 公民館や図書館でYouTubeのチャンネルをこの機会に作ってみるのはどうでしょうか。でも、こういうSNSって公に作るとうまくいかないところですね。**濱原** あと、Web会議ツールを使って、オンラインお茶会を開くとか？ それだけでもみんなの様子も分かるし、気持ちのモヤモヤも少しは解消されるかも！**井口** 「オンライン○○」っていいですね!! 実際には集えなくてもつながり続ける方策は、こうして考えると次々にアイデアが出ますね。

**社会教育アップデート2020**  
**井口** 一方で、オンライン化に対応できない方、特に高齢者、障がい者などもケアしてい

かないと、ますます孤立してしまう。**鈴木** 確かに。「オンライン化に対応できない」というのは、今の喫緊の生活課題のほうですね。

**井口** 一人暮らしの高齢者は、公民館等の施設が休館となり、交流できる機会が極端に少なくなっている人も多いと思う。障がいのある人も、青年学級や作業所の活動が休止になり、家族以外の人との接点が無くなっている人も多いはず。特に社会的弱者の孤立化は問題ですね。誰もが集まらない今だからこそ、孤立しない方法を考える時がきていると思います。**濱原** オンライン化に対応できない人たちに対して、電話でもFAXでも手紙でもなんでもいので、不安や愚痴が言えたり、ストレス発散できる場や機会も必要だよな。どうしてる?とか「何してる?」とか、人に話すと楽しいし、気持ちラクになるでしょ。**たま** そういえば、フェイスブックで見つけたんだけど、岡山市立芳田公民館がおもしろい取組をしていたよ!

**井口** 見たよ、これだよな?「書きっぱなし上等!ためずん愚痴ろう」「コロナグチ」うあなたの愚痴を書いてお寄せください!」つまり、不安や心配事を吐き出して、心を前向きにしていく趣旨なんだけど、「みんなでがんば

や講座を映像で記録したり、ライブ配信したりすることで利用者層も幅広くなるはず。**萩元** いろいろな理由で参加できない人もたくさんいたので、参加できる手立てが増えるのは確実に素晴らしいことですよな。**梶芳** 映像化する上で、個人情報や講師の著作権等への配慮も必要ですよな。講座の再開に向けて、こういったことの準備をする時間として今を活用できればいいなと思いました。**石田** 公民館はお金が無いため教材が買えない!「お金が無いと始められない」と考えたから何もできないので、やれることから何かやってみましょう。

**たま** ふふふ、このグループ通話、実は顔も見られるの。今、ちよつとやってみようよ!  
**オンライン活用のすゝめ**  
**たま** やつぱり、顔が見られると安心できるし、リアルな集いと比べて、そこまで大きな差はないなあ。  
**濱原** まずは気心知れている仲間同士で試せば全然心配いらないね!

**萩元** 社会教育施設の今年度予算は、コロナの影響でかなり残額が生じるのではないかと、講座を再開してもなかなか人が集まらないのではないかと推測すると、いっせ、この機会にインフラの整備をしてほしいと思います。例えば、無料WiFiは、防災、観光、学習のために設置されていることが多いけど、学習の分野では設置率はまだまだ低い。公民館や図書館などの社会教育施設における今の学習には絶対に必要な設備だと思います。**井口** 目が見えない人、耳が聞こえない人、移動が難しい人、時間がとれない人などのことを考えると、オンラインの開催を考えざるを得ない時代ですよな。やれるところからで

**萩元** 確かにアレギーがある人はいっぱいいるだろうね。そうした人にオンラインの良さを知ってもらったり、オンライン化の課題

**鈴木** 確かにアレギーがある人はいっぱいいるだろうね。そうした人にオンラインの良さを知ってもらったり、オンライン化の課題

つて笑  
**萩元** 確かにアレギーがある人はいっぱいいるだろうね。そうした人にオンラインの良さを知ってもらったり、オンライン化の課題

**『社会教育』  
2020年7月号**

連載 第38回 2019年～2021年に開催される国際メガ・スポーツイベントによる社会教育の活性化

COVID-19流行による緊急事態宣言期間中 オンライン座談会

# 社会教育アップデート2020

## ～1 year to Go!～

緊急事態宣言が解除され、社会教育活動の再開に向けて迷いや焦りが募る時期ですが、私達たま社会教育ネットワークでは、どこにいても繋がれるオンラインツール等を活用して、今まで以上に多様な方々と共に活動を発展していける方法を前向きに考えています。

今回は、まだ緊急事態宣言期間中の2020年5月10日、たまいく内で実施したオンライン座談会の様子を漫画形式でお伝えします。

日本の元気はそれぞれの地域から！みんなで、活気ある社会教育を再び目指しましょう！

たま社会教育ネットワーク

石田 智彦・伊藤 隆志・梶芳 久美子・鎌田 哲弥・鈴木 孝志・中田 智久・萩元 直樹

漫画：いとうたかし

たま社会教育ネットワーク 紹介

東京多摩地域から社会教育活性化に向けたネットワークづくりと情報発信に取り組む自治体職員有志を中心とした会。ワークショップや情報交換会などを開催。詳細・アクセス・講演等の依頼は下記WEBサイトから。

<http://tamaku.wixsite.com/tama-iku>



やっほー

みんな、最近の活動はどう？



公民館の職員は、  
通年で行う講座は  
もうできないから  
どうしよう…  
と悩んでいます

今年度前半に計画していた  
イベント関係は、  
軒並み無くなったよ

事業が  
できないことで  
予算にも影響が  
でてくるのでは  
ないかと  
心配しています

緊急事態宣言の  
解除後にまた  
講座やイベントを  
やってもすぐに  
市民の方が  
集まるのか  
分からないね

萩元直樹

いとうたかし

kajiyoshi

うちは  
市職員の  
サテライト  
オフィス  
としての  
公民館利用が  
始まっています

Kamata

いしとも

鈴木孝志

社会教育活動  
全体がしばらく  
止まっていたから、  
まずは市民の活動  
状況を把握したい  
ところですね

色々な影響が、  
単なる「中止」で  
終わらないように、  
今できることを  
考えたいなあ

ナカダトモサ

たま

# オンライン学習の難しさ

オンライン化は、  
今回の件がなくても  
次第に社会に定着化  
するでしょうね

でも活用できない人が  
さらに孤立を深める  
課題に直面している  
今だからこそ、  
広めていく必要が  
あると思います

「オンラインは  
分らない」  
「つながらない  
からいいです」と  
なりがちで、  
歯がゆいです

友達に誘われたり、  
一度体験したりすれば、  
「ITアレルギーマイナ  
ものはなくなるんじや  
ないかな

今までの社会教育は、  
対面が当たり前  
概念でしたよね  
オンラインの活用には  
この「対面ではないと  
できない」イメージから  
大転換が必要だと思っ

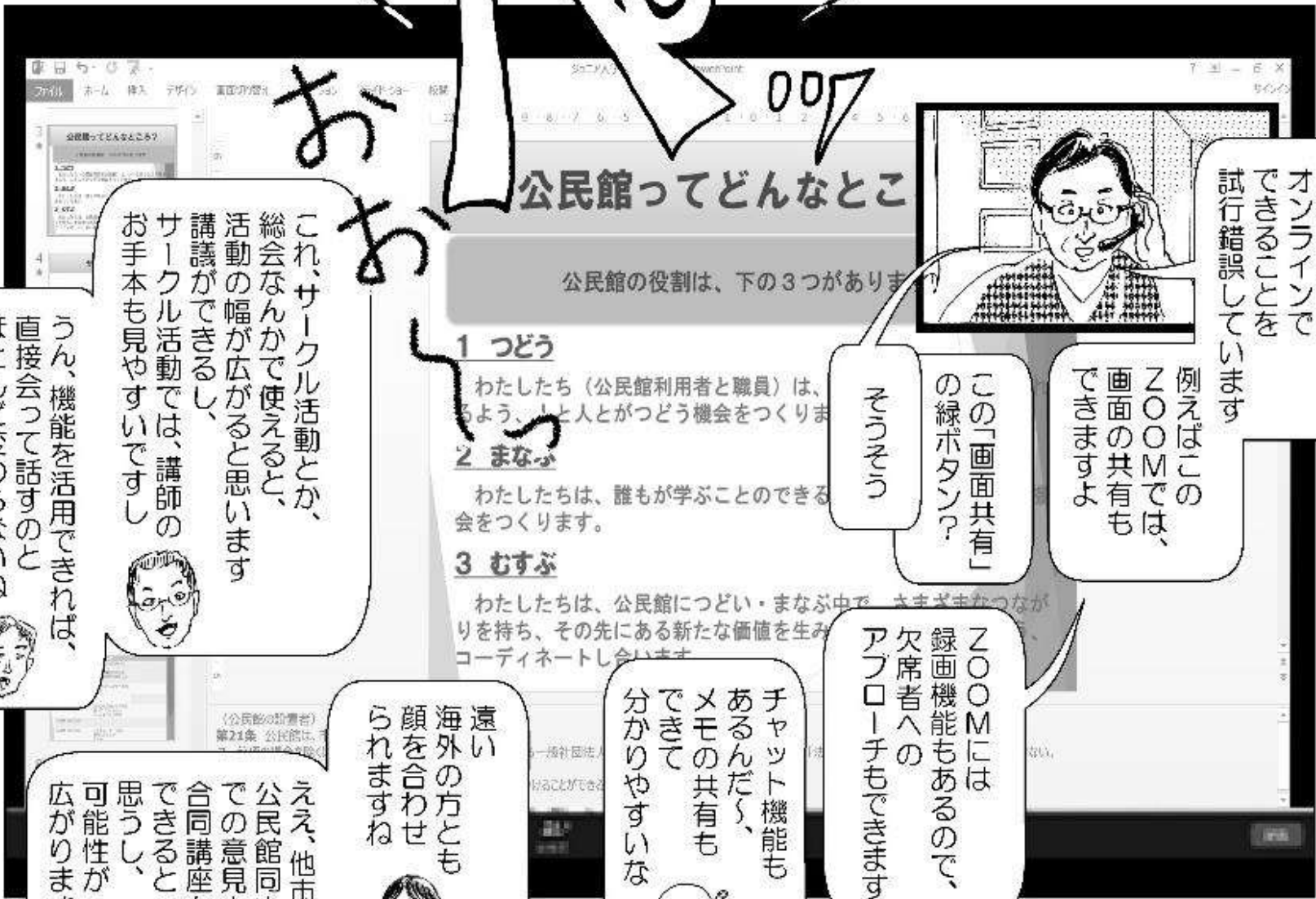
行政で  
オンライン化を  
進めようとすると、  
どうしても  
民間の流れから  
1、2歩遅れて  
しまうよね

特に市役所のパソコンは、  
「ZOOM」等のアプリも  
セキュリティの問題があって  
スムーズに入られない  
んですよ

これを機に  
オンライン手法が、  
コロナ終息後も、  
外出や移動に  
困難を感じる人や  
時間がない人たちの  
学習機会をつくる  
ためのツールに  
なるといいよね



おーっ  
おーっ



今私の方では、オンラインでできることを試行錯誤しています

例えばこのZOOMでは、画面の共有もできますよ

この「画面共有」の緑ボタン？そこそこ

ZOOMには録画機能もあるので、欠席者へのアプローチもできます

チャット機能もあるんだ、メモの共有もできて分かりやすいな

遠い海外の方とも顔を合わせられますね

ええ、他市の公民館同士での意見交換や合同講座もできると思うし、可能性が広がりますね

うん、機能を活用できれば、直接会って話すのとほとんど変わらないね

これ、サークル活動とか、総会なんかで使えると、活動の幅が広がると思います。講議ができるし、サークル活動では、講師のお手本も見やすいです

### 1 つどう

わたしたち（公民館利用者と職員）は、互いによく話し合おう、人と人がつどう機会をつくりま

### 2 まなぶ

わたしたちは、誰もが学ぶことのできる機会をつくりま

### 3 むすぶ

わたしたちは、公民館につどい・まなぶ中で、さまざまなつながりを持ち、その先にある新たな価値を生み出すために、互いに支え合い、コーディネートし合います

（公民館の設置者）  
第21条 公民館は、

# 事業やイベントが動かせない今、何ができるか

オンライン会議のツールは「ZOOM」以外にも色々あるから、1つずつ試してみるのもいいね



今の時期、郵送で対応することが多いんですけど、こういうツールも今度提案してみようと思います

オンラインを活用すれば、これまで以上に多様な方が参加できるはずだから、対話で様々な意見が生まれて、活動の広がりが期待できそうですよね

課題意識を持って動けば、一緒に広げてくれる仲間は見つかるはず。一人でも多く仲間を見つけて、未体験の人を積極的に誘っていくことが大切ですね

今から備えることとして、当たり前ですけど、講座室の机・椅子のレイアウトとか、注意書きのサインージなど、Withコロナの環境対策も必須ですね

ステイホームの期間、うちの公民館では公式ツイッターを活用して、過去の講座やイベントの学びの中から、家でも役立ちそうな情報を抜いて共有できるようにしています

いいですね！  
そういう取組

はい、自分の周りでは、社会教育のオンライン化の気運も着実に高まっています



kajiyoishi



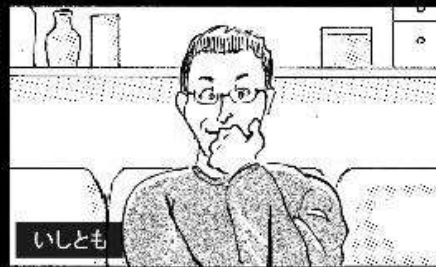
いとうたかし



いとうの直樹



鈴木孝志



いしども



amata



オンラインでのカルチャースクール系の学びは、民間でどんどん進められているから、「行政だから」できることを考えたいですね

やっぱりサークル支援でしょうか

市民の方々と情報交換しているんですが、一貫連のサークルが市民のオンライン活動を推進するために「ZOOM」説明書を作っているって聞いたことがあります

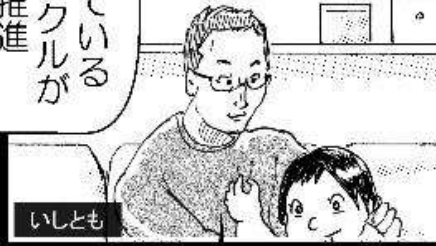
それはすごい！自分たちの学習がみんなのためにもなる学びの循環だあやっぱり、日頃からの関係づくりが大切ですね



kaji yoshi



Kamata



いとも



鈴木孝志

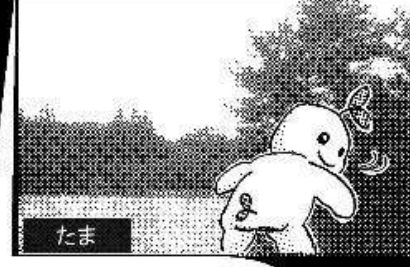
今の時期、公民館活動のうち「講座」と「サークル活動」のバランスを考えると、職員としては「公民館主催の事業を今年度に何とか行うー」ことよりも、まずはサークル支援（元通りにしていくか、パワーアップさせるか）が大事でしょうね

例えば、サークルのオンライン化を支援するために、パソコン講座をよく主催している商工会とコラボして、講座を開催したり…改めて、そういう組織との日頃からのつながりも大切だと思います

確かに、何より市民の活動を守り立てていかないとね。それぞれの地域での小さな取組の積み重ねが、日本の元気を取り戻すはず！



中田比佐



たま



どーしても、じょう・まなぶ・むすぶ

いつもの仲間と  
試してみたことで  
オンライン  
ツールの有用性が  
分かってきましたね

そうですね！  
あと、サークル活動  
などの学習活動を  
続けていくための  
助走期間として  
講座を捉えると、  
オンラインツールや  
SNSの活用を  
講座の中で学ぶ  
ことも重要ですよ

オンラインなら、  
開催頻度の  
制限もないから  
活動の幅も  
広がるし

それはいいですね！  
IT関連の  
市民団体などが  
学習支援者になる  
のが望ましいですね

事業の募集のため  
だけの事前広報に  
なりがちだけど、  
SNSを利用して、  
事業の最中の様子や  
アウトカムを伝える  
ことを大事にすれば、  
循環して次の事業に  
つながりますよね



こんな時だからこそ  
「情報発信は市報  
しかない」とか、  
固定観念にとらわれ  
ないで良いと思う



いとうたかし



志



いしとも



萩元直樹



Kamata



モヒサ



たま

少数意見で実現  
できなかった  
リモートの活動が、  
多くの人の  
必要に迫られて  
動き出している今、  
オンライン化を  
社会教育の選択肢に  
していきたいですね

うん、  
そのオンラインは  
「ITでこんな  
こともできる」  
「つながりの  
大切さ」を伝える  
チャンスですね

そうすれば  
新たな  
ファンが  
増えそう！



あくまで、同じ場に集うリアルな活動が大切、というのは軸だけど、それをオンラインで補完するとさらに広がるから…

社会教育がパワーアップということですね！

これを機に学びの選択肢が広がっていきますね！

オンラインを使えば使うほど、「だからつながりは大事だよ」っていう原点回帰に気が付くんですよ



kajiyooshi



いとうたかし



直樹



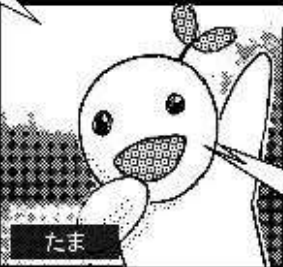
鈴木孝志



Kamata

そう、ピンチをチャンスにね！

自主性が大事といわれる社会教育自分でスタート地点をつくっていくそれが改めて大事だと思っただよ



たま



いしとも



トビサ

オンライン化に向けたチャレンジを広めて、この逆境からみんなでのろしを上げましよう

私たちがやらねば、誰がやる？

今やらねばいつできる？

**『社会教育』  
2020年9月号**

## 特集 社会教育のモヤモヤをオンラインで考えよう！ ～Withコロナ社会における新しい学び～

たま社会教育ネットワーク

井口 啓太郎・石田 智彦・伊藤 隆志・梶野 久美子・鎌田 智弥・鈴木 孝志・田中 環希子・土屋 久之・萩元 直樹・清原 幸恵

Special Thanks

両山市教育委員会 内田 光俊・『社会教育』編集長 近藤 真司

2020年6月28日(日)、たま社会教育ネットワーク(以下、たまいく)は、初めてのオンライン対話ワークショップを開催した。これまでも、たまいくでは「社会教育のモヤモヤをみんなで考える」をコンセプトに、主に社会教育や市民活動に関わる行政職員を対象としたワークショップを開催してきた。最近では、2020年3月に企画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、開催を断念した経緯がある。これまでもたまいくの連載「2019年～2021年に開催される国際メガスポーツイベントによる社会教育の活性化」では、このコロナ禍において学びを止めない工夫やオンラインを活用した学習支援について触れてきた(2020年6月号・7月号参照)。その実践事例として、今号では、自主研修会「社会教育のモヤモヤをオンラインで考えよう！」開催の様子と、イベントを通じて得た気づきについてレポートする。あなたの地域でも「オンライン」をうまく活用し、社会教育のリデザインにチャレンジしてみたいかがだろうか。



### 初めてのオンラインワークショップ

新型コロナウイルス感染症の拡大とともに、これまで当たり前だと思われてきた常識は根底から覆され、社会の在り方が大きく変わってしまった。これまでの生活文化が急変し、社会教育の現場でも考え方の大きな転換を迫られた。公民館等の社会教育施設では、これまで地域住民が一堂に集って学び、繋がりが合うことで、その役割を果たしてきたが、それができなくなってしまうのである。誰も予想できなかった事態に、社会教育関係職員の多くは施設管理上の対応に追われ、その後には発信型の講座の実施やサークル活動のサポートなど、試行錯誤を重ねてきたのではないだろうか。

こうした状況の中、たまいくができることを考えた結果が、今回のイベントだ。コロナ禍における現場での工夫や実践、悩みを共有することで、参加者に明日へのモチベーションを高

めてもらうとともに、たまいくメンバー自身も、これからの社会教育のヒントが得られればという思いで、当日まで何回もオンラインで打合せを重ねた。たまいくにとっても初めてのオンライン開催であり、アイスブレイクや対話タイムにおける進行の流れ、システム面での運営方法など、手探りの部分も多かったが、それゆえ企画段階における自分たちの学びも多かった。運営面では、これまでのリアルでの実践手法を極力活かせることを軸に企画した。リアルに集うことが制限される今、オンラインツールを使用せざるを得ないこの状況を、逆にチャンスととらえることが、社会教育の新しい一歩となるはずである。「コロナ禍」というこれまでにない、とても大きな地域課題に社会教育ができることを考えていく過程は、まさに社会教育をリデザインすることに繋がるだろう。

「コロナ禍が去った時に社会教育が必要だと思ってもらうためには、いま、我々が立ち止まってはいけない。」—— 鈴木 孝志

### 社会教育のモヤモヤをオンラインで考えよう！当日の流れ

当日の主な体制  
ファシリテーター：萩元直樹  
チャット対応：井口啓太郎  
グループ進行：たま育メンバー  
システム関係：鈴木孝志

当日の全体の流れ  
09:30 ミニアンケート(自己紹介)受付  
10:00 参加者自己紹介(自己紹介)受付  
10:30 アンケート受付  
11:00 アンケート受付  
11:30 アンケート受付  
12:00 アンケート受付  
12:30 アンケート受付  
13:00 アンケート受付

ゲストトーク時の流れ(9分)  
00:00～01:30 近藤さん自己紹介  
01:30～03:00 内田さん自己紹介  
03:00～06:00 社会教育の本質を問う  
06:00～13:00 社会教育の難しさを問う  
13:00～23:00 若田コロナの社会教育のあり方について問う  
23:00～24:00 内田さん一言まとめ  
24:00～25:00 近藤さん一言まとめ  
25:00～40:00 質疑応答

ファシリテーターからゲストへ  
あらかじめ伝えたい進行的ポイント  
自分自身が所属している分野の観点、社会教育の必要性、社会教育の現状、社会教育の未来について、あらかじめ伝えておくことで、スムーズな対話が可能になります。

近藤さん一言まとめ  
これからの時代において、社会教育のあり方について、自分自身が所属している分野の観点、社会教育の現状、社会教育の未来について、あらかじめ伝えておくことで、スムーズな対話が可能になります。

たま社会教育ネットワーク

社会教育のモヤモヤをオンラインで考えよう！  
6月28日(日) 10:00～12:30  
会場：両山市教育委員会  
参加費：無料  
申し込み：両山市教育委員会  
お問い合わせ：両山市教育委員会

「社会教育施設として新しい生活様式に基づく安全を身に付けてもらう」という「学び」の観点から館の運営や講座を企画していることは、大変参考になって良かった。

オンラインでの対話の空気感がつかめず、グループ全体で話を回すのは難しかった。進行役と発言者の1対1のやり取りのようになってしまい、全体への話の振り方も択一的なものになってしまいがちだった。またひとりの発言が終わるまでみな黙って聞いているため、一人一人の発言が長くなりがちで、発言者のバランスを取ることが難しかった。

内容もアイスブレイクやゲストトーク、グループワークなどがテンポ良く構成され、いろんな人がメインになることで絵面に変化があり、普段オンラインに慣れていない参加者の人たちにも飽きさせない内容であったと思う。

最初にキーワードなどで結論をもらい、あとで説明など話の進め方を最初に設定すると良かったかも。アナログ以上に発言の機会をこまめに作っていくことが重要。あとはチャットやホワイトボード、画面共有などの機能を有効に活用して、アナログのように口も手も動かして対話を可視化しておく良かったと思った。備忘録にもなるし。

このコロナ禍において絶対の解答がない中で、原点に立ち返り、社会教育施設として「学び」を軸に考えることは大変大切だと感じた。そういった軸を持つことで多様な意見があったとしても、ブレることなく理解・協力を得ながら公民館、生涯学習センターの運営を進めていくことができるのではないかと考えた。

広報段階での社会教育部署の職員等の声からは「そもそもオンラインツールを導入できず、息詰まっている」と聞くことが多かった。参加を見送った方の中には、組織としてオンラインツールを使える環境でない仕事や活動に活かしづらいとの印象があったのかもしれない。ただ、本イベントでも話題にあったが、自主的なネットワークからアイデアを得て、それを地域の力を振り所にして活動を広めていく方法もある。そこで大事なのが、市民・団体とのつながりの中で、新しいことも柔軟に取り入れ、「学び合う意識を働きかけていくこと」の繰り返しが必要だと改めて感じた。オンラインツールに関心があるかどうかを問わず。

施設の中にオンライン対応の部屋を1つでも作れないか、広報担当や観光担当などにお願いで機材を借りられないか。市民団体と連携・協働して配信できないか……。Wi-Fi環境は、まだまだ整いそうにはないが、「ネガティブなことばかり言っていない」「思いつく可能性にあたってみよう」と考えた!! それと、グループでの対話は、オンラインだと進行がゆっくりとなりがちで、対面するよりも時間のかかる作業だと、事前に感じられたのは良かった。細かなバリエーションができるように練習をしようと思った。

多摩地域に限らず全国からの参加者が多かったことは新たな可能性を感じた。「この状況に負けまい!」と、全国で奮闘するみんなの底力を感じた。小さなネットワークが持つ力は、決して小さくないと思った。やはり「次に何ができるか」と思う。ゆるやかなつながりを作るプラットフォームをたまにや『社会教育』の誌面で作れたらと考えた。オンライン化で全国のつながりが容易になっているので、「ピンチをチャンスに!」この機会を有効にネットワークに繋げていきたい。

緊急事態宣言が明けて活動再開にさしかかるこのタイミングの間催だったので、オンラインツールの使い方や可能性について、実際に体験しながらタイムリーに学ぶことができたのは大きかった。また、終了後に生まれた地域の方とFacebookで新しいつながりが生まれたのは良かったし、オンラインで知り合った仲なので友達申請もしやすいと思った。今後、オンラインに対応できない人たちをどうやって取り残されないようにするか、また、With コロナ・After コロナの具体的な講座の実施方法論などについてももっと話し合いたい。施設内外におけるオンラインとリアル併用化についても今後考えていかなければならないと思った。

コロナ禍で何もかもが新しい様式に変革しなければならないことになり、適応していくことが大変な世の中になってしまいました。このように課題が多い中でも、ピンチをチャンスに前向きに捉え、柔軟に対応していく姿が社会教育らしいと実感しました。今回のイベントで様々な可能性を学ぶことができたと思います。

小さな画面で共有するためには、A4用紙を折ってA6サイズにしてカメラの前に構えれば、顔と紙のバランスがちょうどいいことに気づいた。グループセッションの際、自己紹介と併せて「このイベントで期待することは何か」をテーマに記入したが、時間を効率的に使うためには、単語だけでも良いかと感じた。アイスブレイクでのグループは、①予め指定、②ランダムでの2ラウンド。ランダムの際にはファシリテーターがグループにいない場合もあるが、参加者全員が積極的に話をする流れにつながったと思う。オンラインならではの意外性が新鮮で、よりアイスブレイクの効果をもたらしたと感じられた。

参加者の一人が「オンラインとアナログを融合させたい」という思いで、ペンで見える化(グラフィックレコード)しているのを見て、とても勉強になった。内田さんと近藤さんの話を聞き、後半の対話が活性化できてよかった。



公民館等の現場からはオンラインで打ち合わせやイベントをする環境づくりのハードルの高さを感じた。オンラインで代替できること、オンラインでしかできないこと、対面でしかできないことをもう少し突き詰めて、「やってみた」実践を今後紹介し合えると学びが多いかもしれない。また、ウェビナー(ウェブとセミナーを組み合わせた造語)という用語も定着したり、オンラインイベントが多く業種で多種多様に行われていたりするので、行政や地域だけでなくアンテナを広く構えることが大事だったと思う。

## 社会教育の学びほべし

我慢が多い今こそ、バラバラになるのではなく  
一致団結していくべきタイミング  
一度中止を検討したイベントもチャリティ化によって  
Withコロナに向き合う費用を捻出できないか  
新たな参加を迎えて、次につなげていく機会に  
オンライン化は利用者に新しい風をもたらす

社会教育はネガティブに向き合い、  
ポジティブに向かっていく活動  
前へ前へと成長して生きていくために  
コロナで潜在的な課題が増えている  
誰一人取り残さない意識をこの際強く持ちたい  
一人一人が学び続けていくことが重要  
社会の変化に合わせて自分自身に変化していけないと

とにかく、みんなで考えよう

日時、会場、対象、定員、費用といったイベント告知の際の要素の一つに「オンライン対応」が今後含まれていくはずだ。これは、「保育」の有無という要素と同じ感覚がもしれない。平等に学べる環境づくりを努める上で、欠かせない対応という認識は今後ますます深まるだろう。また、会場という意味で深く考えたときには、施設の内外・オンラインの有無という2つの軸で捉えらるる良いだろう。場合に応じたミクスドユース（複合利用）が望ましい。

社会教育に長年携わっているグストの内田氏と近藤氏からは社会教育の普遍性を学んだ。つまり、社会には常に課題がある。いつも乗り越えてきたし、変化し続けてきた。すべての困難を学びに変えていくのが社会教育であり、この状況だからこそ社会教育活動が必要であると。やはり、社会教育が育んでき

た市民の自治力を今一度考えてみてはどうだろうか。Withコロナ下で活動を行う上での感染予防措置について、施設側が一方的に決定していく中で利用者の理解や納得などが置かれていない状況は生まれていないだろうか。本イベントの中で、そのヒントが得られたので紹介したい。それは、決められた感染症対策のルールを学びながら、施設に当てはめて再考し、現場での利用実態に合わせたものにローカライズして詳細なルールづくりや予防措置対応を行政と市民が協働して行っていくというものだ。確かに、これが社会教育ならではの良さだ。

使用したZOOM(有料アカウント)では、様々な機能(※1〜4参照)の活用と役割分担(※5参照)がポイントであった。また、社会教育の力を借りてみんなで作り上げていく雰囲気を得られたことも成功の要因だった。

## オンラインの可能性と課題

オンラインはリアルの代替ではなく、あくまで補充だ。交流という視点で見れば、やはりリアルに顔を合わせての対話にはかなわないだろう。例えばリアルに集う場であれば、イベント終了後の名刺交換や情報交換会の実施など、さらに交流を深めるオプショナルがあるが、オンラインの場では、休憩時間に隣の人と雑談を楽しむということも難しい。逆に、どのように参加者同士の交流を生むか、主催者の腕の見せ所でもあるが、現状のオンラインツールの機能では限界があるだろう。

一方で、オンラインの最大の強みは、場所を超えてアクセスできることだ。今回のワークショップにおいても、グストの内田さんをはじめ、宮城県や山口県など、全国各地から様々な方に参加していただいた。全国に共通する悩みがあれば、その土地ならではの課題もあり、それ

ぞれが異なる学びと気づきを持ち帰ってくれたに違いない。生涯学習社会とは、「いつでも・どこでも・だれでも学ぶことができる社会」である。オンラインでのやりとりが社会に浸透したことは、「どこでも」学ぶことができる社会の実現に向けた大きな一歩である。しかし、同時に懸念すべきは、この社会の流れに対応できなかった場合に更なる学びの孤立を生む可能性もあるという課題だ。このコロナ禍は社会教育関係者にとって試練でもあり、新しいチャレンジの機会でもある。オンラインという可能性をうまく活用した新しい学びをデザインしてほしい。

人と出会うこと、相互に学び合うこと、ネットワークを育むこと、そして、誰一人取り残さないこと、これまでもこれからの社会教育のバランスが見えてきた。今こそ、全国の繋がりを、

※1「開催共有」指定した企画を参加者に共有して見せる機能。会議室のプロジェクトの役割と同様。今回、定期開催前に案内を輸出した。

※2「チャット」全体や個別へのメッセージのやり取りができる。スピーカーの話を聞きながら、チャットでの会話が活性化されることで学びや理解も深まる。

※3「ブレイクアウトルーム」グループに分けるための小部屋を設定し、そこで個別のミーティングを行うことができる機能。リアルな場でテーブルを囲んで話したい場合は指定・ランダムで2パターン行った。

※4「録音・録画」レコーディング機能。録音機能が備わっている。特別な機材を用意する必要も手帳も不要。レコーディングした動画や音声データを共有・保存できる。今回、オンラインイベントを運営する方の参考になるよう、Facebookのコミュニティページの「次頁参照」に、イベントの概要ムービーを公開しているののでぜひご覧いただきたい。

※5「役割分担」事前グストとの連絡調整、参加者との連絡調整、広報資料作成、イベント時メインファシリテーター、グループファシリテーター、チャットファシリテーター、ZOOM操作、アイスブレイク、問答受付、開会の挨拶、謝辞、参加者への連絡、動画制作、本報制作など。

## 今回も、そしてこれからもピンチをチャンスにしていこう

**Japan Social Education Awards 2019**  
2020年10月 オンライン開催決定!!  
あなたの投票が社会教育の未来をつくる!

“Japan Social Education Awards”(2018年10月号参照)では、『社会教育』へ掲載された記事を対象に表彰を行います。昨年度初開催し、社会教育の新しい希望が示されました。今年は初めての試みとして10月にオンライン上で開催します。全国各地にいる読者の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

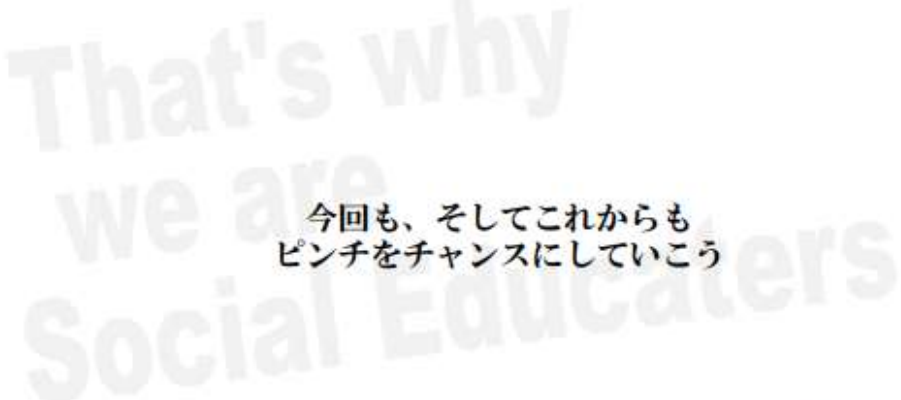
詳細は次号『社会教育』2020年10月号にて

**FB 社会教育 Social Education**



社会教育に関するものなら誰でも投稿が可能。Facebookの気軽さを活かして、全国の取組の情報共有を積極的に進めていきましょう。

個人用アカウント登録後、QRコードより本コミュニティに登録ください。



# プログラム 2

## オンラインの ワークショップ

# モヤたまたまオンラインが 目指したものの

コロナ禍における社会教育現場の工夫や実践、  
悩みを共有し、各人が気づきを持ち帰り、  
明日へのモチベーションとすること

**=リアル開催と変わらぬ趣旨**



# ポイント!

これまでリアルで  
行ってきたことを  
オンライン上でも実施  
+オンラインならではの工夫

# ①名札

名札代わりに、所属を表示

例：多摩太郎(たま公民館)

## ②アイスブレイク

緊張をほぐすため、  
互いを知り、簡単な交流をする  
アイスブレイクを実施

# ③対話ワーク

ブレイクアウトルームを活用し、  
少人数のグループでの対話  
→各グループにたまいくメンバーを配置

# ④チャットの活用

チャットファシリテーターを配置  
して、チャット上の質疑・意見交換  
を活性化

# ⑤録画データの活用

録画データを編集し、  
ダイジェスト版として発信

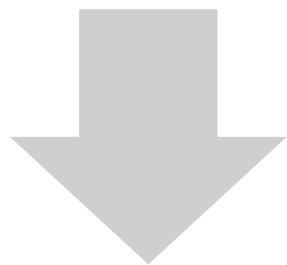
<https://www.youtube.com/watch?v=lb6UnuBQxws>



# ⑥その他

- 広報、申込は「こくちーず」を利用
- アンケートは「グーグルフォーム」で実施
- 最後はオンライン上で記念撮影

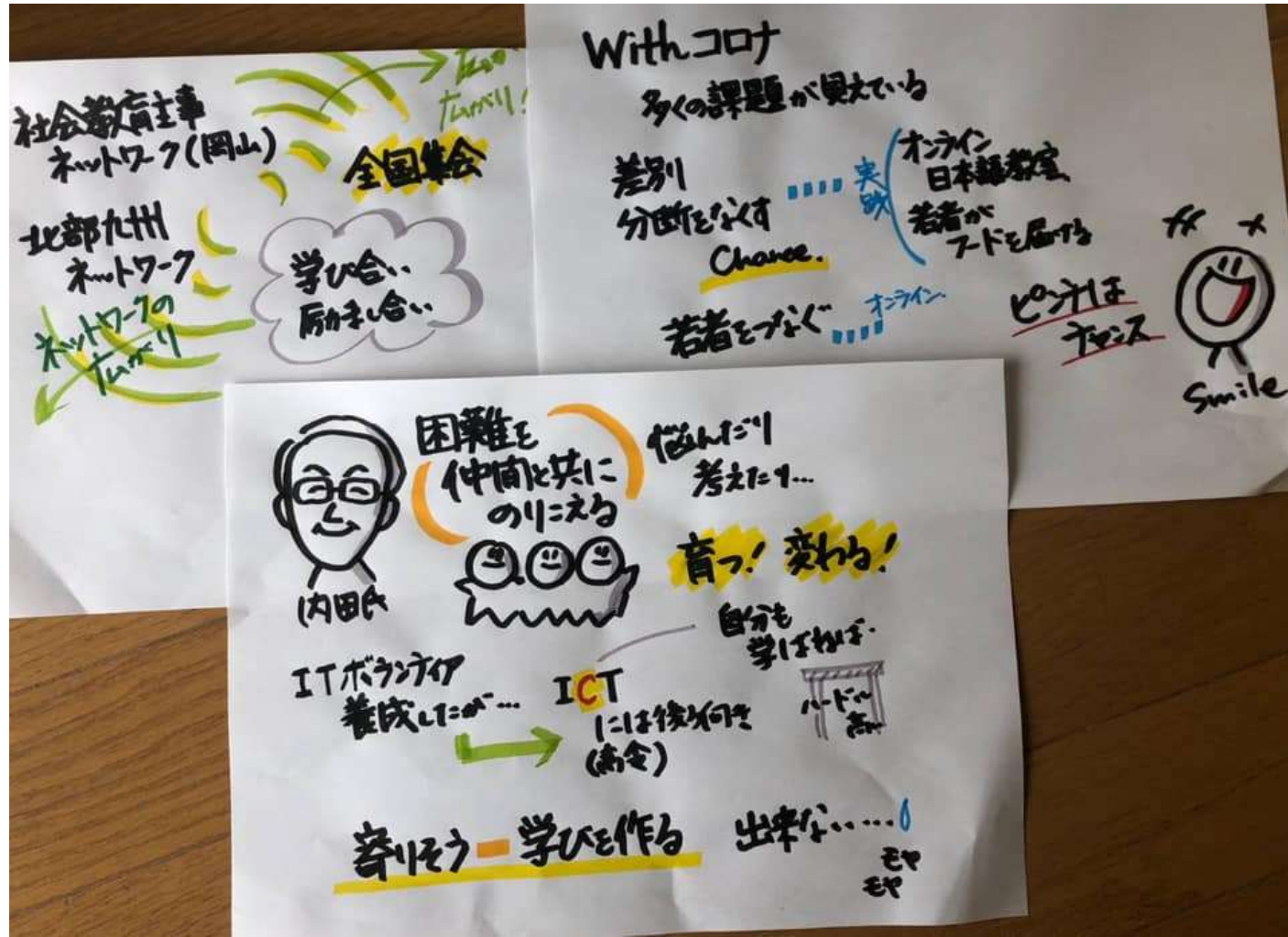
開催を諦めていたモヤたま



オンラインでも  
「全く問題なく実施できる！」  
ということを実感



# さらに、全国の人と簡単につながることができた

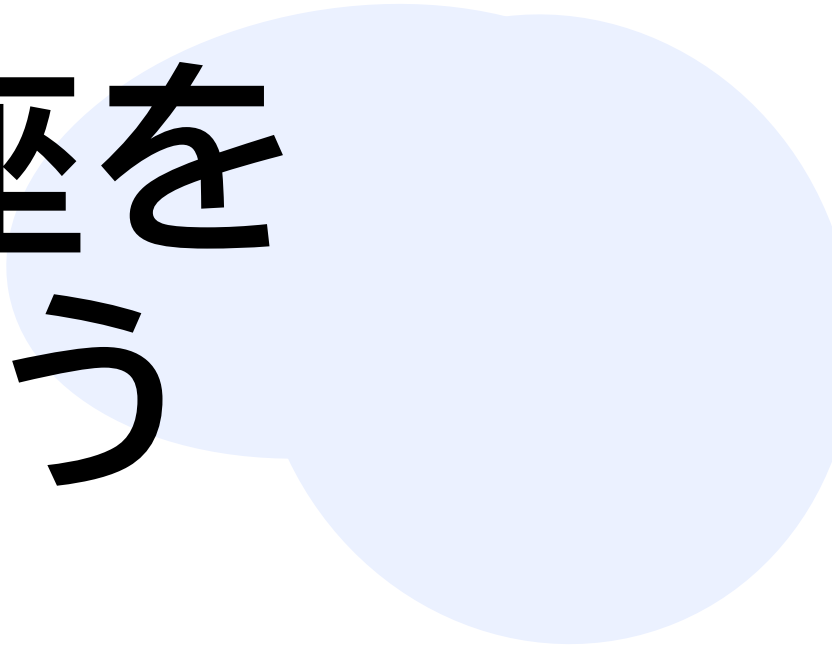


オンラインの新しい  
可能性を感じた！



# プログラム 3

パソコン講座を  
ふりかえろう



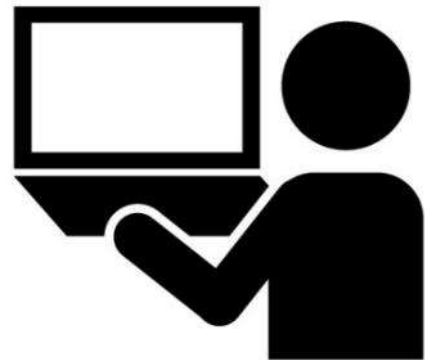
# 2000年以降のパソコン講座

2000年、森首相時代に行われた「IT革命」

⇒国の予算で全国的にパソコンが支給

⇒パソコン講習会の実施

⇒その後、公民館にてパソコン講座が行われてきた経過。

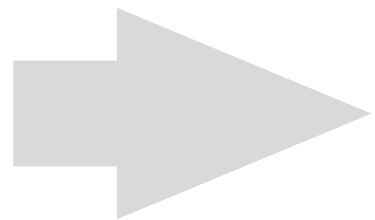




しかし、

# パソコン講座のあるある講座

- ◆パソコン初級者
- ◆ワードの基本
- ◆エクセルの基本
- ◆インターネットの基本 など



**主に生活課題**

# 【参考】課題の累計

(1) 発達課題

(2) 現代的課題

(3) 生活課題と地域課題

(A) 要求課題と必要課題

## 【参考】(1)発達課題とは

人が誕生してから死を迎えるに至るまでの間に、成長・発達・変化をしていきますが、この間に個人が直面する課題を適切に解決することによって、次の成長・発達につなげることができます。その乗り越えるべき課題を「発達課題」といいます。

乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期・壮年期・高齢期などに分けられるライフステージには、それぞれ固有の発達課題があるといわれています。



## 【参考】（２）現代的課題とは

現代的課題とは、地球環境の保全、国際理解等の世界的な課題から、人々が社会生活を営む上で、理解し体得しておくことが望まれる課題であり、「社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営む必要のある課題」と定義されています。時代の進展とともに、次々と新たな現代的課題が生まれます。

なお、この考え方が生まれた平成4年当時、課題として掲げられたものとして、生命、人権、家庭・家族、地域の連帯、まちづくり、高齢化社会、男女共同参画社会、国際貢献・開発援助、環境など19の課題が例示されました。いずれも地球規模の問題ですが、地域での取り組みが欠かせなく、問題が深刻であるがゆえにすぐにでも取り組まなければ未来に禍根を残してしまうという課題群です。

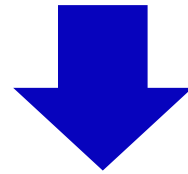
## 【参考】(3) 生活課題と地域課題とは

私たちが日々の生活を送る上で、職業生活、家庭生活、人間形成、余暇の利用、健康の維持管理、地域社会生活など、さまざまな領域において解決すべき課題を「生活課題」といいます。

その中で、多くの住民が共通して直面していながら、個人ではその解決が不可能であったり、地域住民の共同での取組みによって初めて解決が可能となる課題を「地域課題」といいます。これには、特定の地域に限定される問題と、全国に共通する地域の問題もあります。

## (A) 要求課題と必要課題

- ① 一般に人々が学習したい「要求課題」
- ② 学習が求められる「必要課題」



そのバランスをとって、  
学習の機会づくりをすることが大切

つまり、

パソコン講座で扱う課題は  
アンバランスであった

従来、多くの公民館のパソコン講座は？



「生活課題」かつ「要求課題」に分類されるものばかり



**「現代的課題」や「地域課題」  
(かつ「必要課題」)に取り組めなかった。**

パソコンを目的にしない。  
あくまでパソコンは手段。

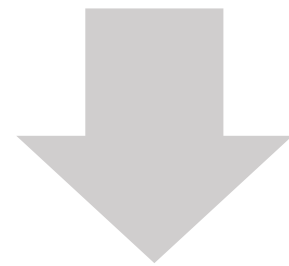
たとえば、



- ◆ふるさと冊子編集プロジェクト
- ◆公民館活動サークルの  
情報冊子を作ろう！
- ◆フォトムービー作成教室
- ◆チラシ・ポスター作成
- ◆WEB広報セミナー
- ◆親子で学ぶパソコン講座

# 例)小平市パソコン講座 「ふるさと冊子編集プロジェクト」

- ①編集者から「冊子作りのノウハウ」を学ぶ
- ②PCサークルから「冊子作りのワード技術」  
を学ぶ

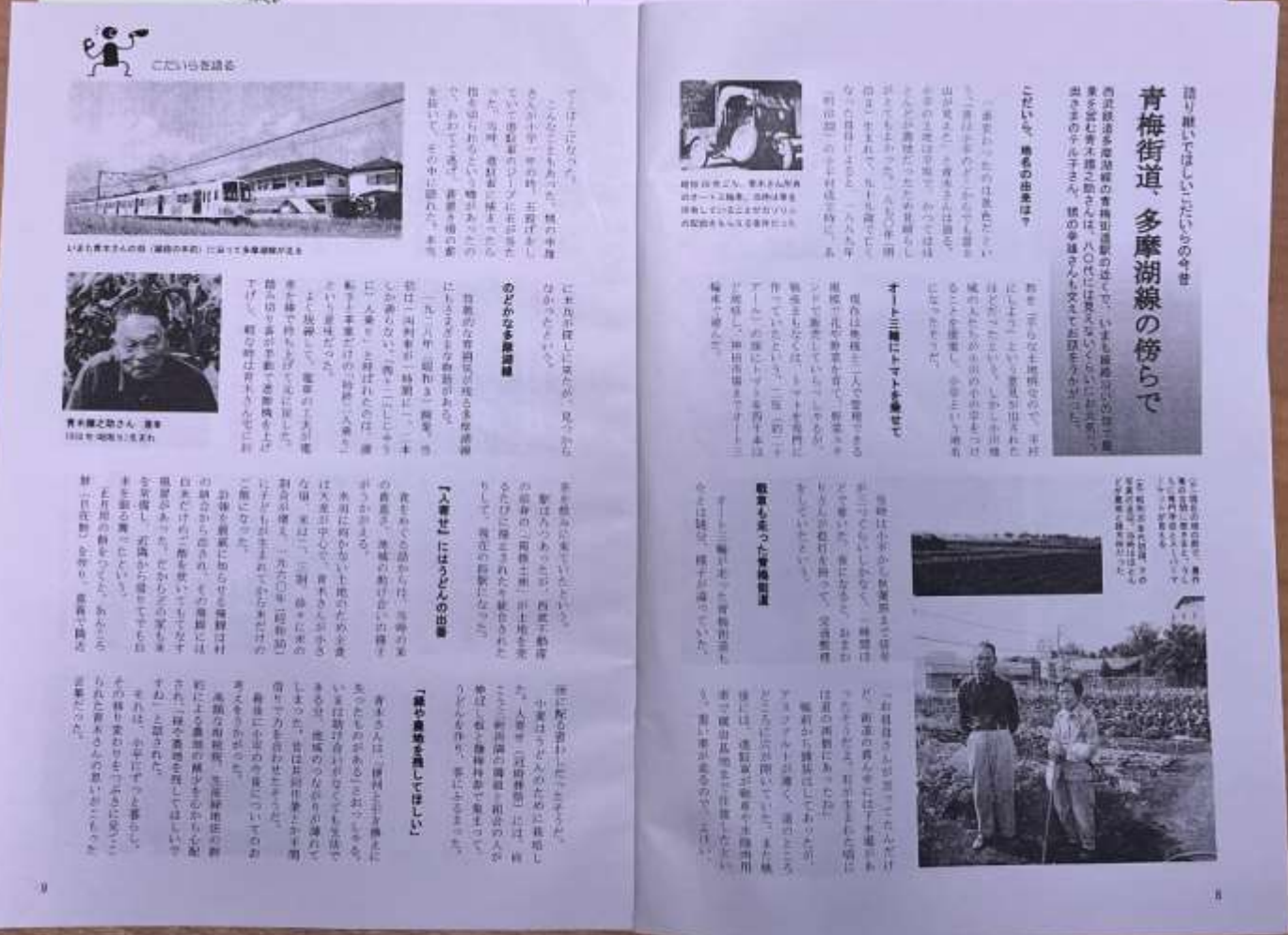


地域で約20人にインタビューして記事化

平成26年 Vol.3  
**やっぱい  
 こだいらが好き。**  
 ~あすに~

平成24年 Vol.1  
**やっぱい  
 こだいら**

小平市に  
 こだいらが好き。  
 平成24年 市制施行50周年  
 平成24年 Vol.1



冊子を1万部刷り、  
 地域で配布

3期/計3冊作成

→地域活動を知る  
 ことでサークルも  
 複数誕生

パソコンを通じた  
学びの循環を育む

# 例)小平市パソコン講座

IT革命時期のPC講習会後



**IT推進市民グループ発足**



市のパソコン講座の**学習支援者として活動**

# 例)小平市パソコン講座「フォトムービー教室」

講座	インプット	市内NPO法人「シニアネットクラブ」から、フォトムービーの作り方を学ぶ
	アウトプット	フォトムービーを作成。 講座参加者で上映会を実施。
	アウトカム	外部向け「上映会イベント」を企画。 あえて別の場(サークル交流事業)で発表し、参加者同士で交流を深めた。
サークル活動	アウトカム	そこから地域の情報や課題発見につながり、新たな取り組みへとつないだ。

 **講座は個人学習やサークル活動の助走期間**



各班の作品を  
紹介して上映  
しました



皆で上映作品について  
意見を交わしました。



# 例)国分寺 パソコン教室(平成30年まで実施)

中学校のパソコン室を使用

中学校の技術研究部(PCコース)の生徒が  
公民館講座の学習支援者として  
市民にパソコンを教える



並木公民館主催 五中生に習う初級パソコン教室

## 私のオススメ**国分寺** MAP

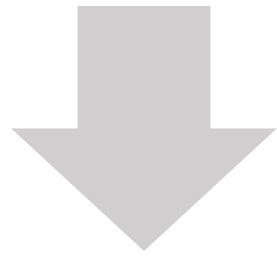


自分の好きな「わがまち国分寺」マップ  
を作成してみましょう！

日時 8月21日(火)・22日(水)  
午前10時～正午

講師 打越和枝さん (パソコンインストラクター)  
補助 第五中学校 技術研究部 パソコンコース生徒  
場所 第五中学校 コンピューター室  
対象 ローマ字入力のできる人 20人

パソコン＝課題を解決する手段

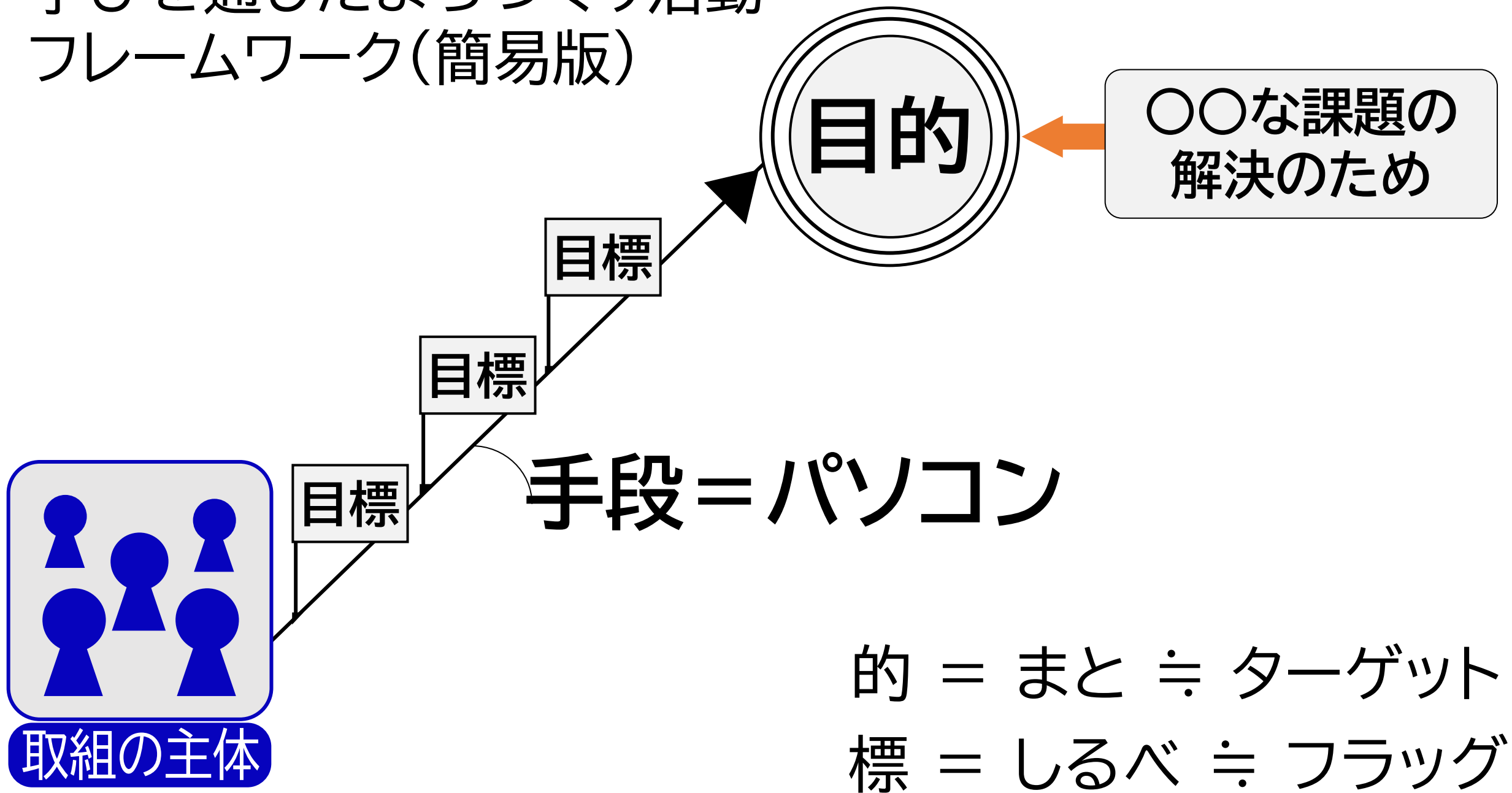


まずは、普通の講座と同じで、  
「課題から」考えよう！



オンライン活用も  
目的化しないように！

# 学びを通じたまちづくり活動 フレームワーク(簡易版)



オンラインを  
やらなければならないから  
やるのか？

オンラインの習得、  
オンラインの活用によって、  
どんな課題を  
解決していきたいのか？

# プログラム 4

オンライン活用でひるがる  
公民館活動



## 【参考】公民館活動の三本柱とは・・・

- ①公民館職員の企画する講座・講演会等の活動
- ②社会教育関係団体(サークル)の活動
- ③公民館職員と利用者の協働活動  
(例:公民館まつり、交流会、講座での連携等)

この三つの柱が相まって行われる活動こそが、真に公民館活動と言えます。

# ①公民館職員の企画する講座・講演会等の活動

オンラインの活用によるメリット

- 1 オンサイト・オンラインの良さを生かせる
- 2 参加者の増加
- 3 参加ハードルの低下
- 4 生涯学習社会の実現に寄与 など

生涯学習社会とは…

いつでも・どこでも・だれでも  
学ぶことのできる社会

**「だれでも」は最も難しいこと**



**オンラインの活用によって、  
公民館活動のハードルを  
下げることができる！**

## ②社会教育関係団体(サークル)の活動

→職員の仕事としては、  
「サークルの学習支援」ということ！

コロナ禍においてサークル支援のためにできること

- 1 課題聞き取り
- 2 サークル活動の継続支援
- 3 オンライン活用の支援 など

# ③公民館職員と利用者の協働活動

コロナ禍において職員ができること

- 1 伝統的な公民館の文化であったイベント等の継続のためのオンライン活用の模索
- 2 必要以上にオンサイトで集まらないためのオンラインの活用  
(公民館運営審議会、友の会など)
- 3 オンライン活用できない団体・個人へのフォロー など

# たくさんある「オンラインのメリット」

エリアを超えることができる！

- 1 市内の他館との連携・共催が可能！
- 2 市外で広域での連携・共催が可能！
- 3 遠方の学習支援者（講師等）の招聘が可能！交通費もかからない！

など

# たくさんある「オンラインのメリット」

時を無視することができる！

- 1 オンライン会議のシステムは「録画」が簡単！
- 2 録画した動画を欠席者へ送付フォロー
- 3 YouTubeにアップしていつでも見ること  
もできる など



# プログラム 5

〈まとめ〉

ウィズコロナでオンラインの  
学びを「拡張」する公民館

オンラインによる「拡張」



3つの軸

①

これまで公民館に  
来れなかった人を  
巻き込んでいく

②

オンラインから  
抜け落ちてしまおう人たち  
に寄り添っていく

③

オンラインによって  
学びや活動方法を  
アップデートしていく

新たな  
ステージへ！

社会教育を  
アップデートしよう!!

# 質疑応答のお時間





たまいくではともに活動する  
メンバーを募集中

詳細はHPをご覧ください

興味ある方は

tamaikunet@gmail.com

まで



次回は3月5日(土)10:00~  
オンラインでゆるく語り合います

ぜひ、ご参加ください♪  
興味ある方は

tamaikunet@gmail.com  
まで



おわり

## 【参考】

以下、パネルディスカッション用の  
準備スライド

目指せデジタルシニア!松林コース

# スマホでできる10のこと



(\*)「□」スマートフォンに変えたけど使い方が分からない方～!!  
まずは、自分がどんな契約をしているかを知るところから始めましょう。  
基本の“き”の文字入力から学び、一人ひとりの疑問点を解消しながら、  
自分だけのスマートフォン・マニュアルを作ります。  
※令和4年2月19日(土)に3館合同で学習成果発表会を行います。

日時: 12月16日～令和4年2月24日の木曜日  
※12月30日、令和4年1月13日を除く  
午前10時～11時45分(発表会を含む全10回)

場所: 公民館松林分館ほか  
対象: 市内在住・在勤の60歳以上で、スマートフォンをお持ちの初心者の方

定員: 8人 ※応募多数の場合は抽選  
費用: 無料 ※通信費は自己負担となります



持ち物: GooglePlay(グーグルプレイ)またはAppleStore(アップルストア)の入っているスマートフォン・筆記用具

学習支援: 小野 豊氏(松林分館サポーターズ)

申込み: **往復はがきで!** 往復はがきの《往信面(裏面)》に、

- ①希望のコース名 ②氏名(ふりがな) ③住所 ④電話番号
- ⑤年齢⑥お持ちのスマートフォンの機種の名前及び型番
- ⑦いつスマートフォンを使い始めたか

《返信面(表面)》にご自分の住所・氏名を記入して、  
〒197-0013 福生市武蔵野台1-15-1 公民館松林分館へ

※締切り: 11月30日(火)(当日消印有効)

問合せ: 公民館松林分館 ☎042-552-3624



# 福生市公民館松林分館

## ポイント1

### 講師なし!

### 市民と公民館主事が学習支援

## ポイント2

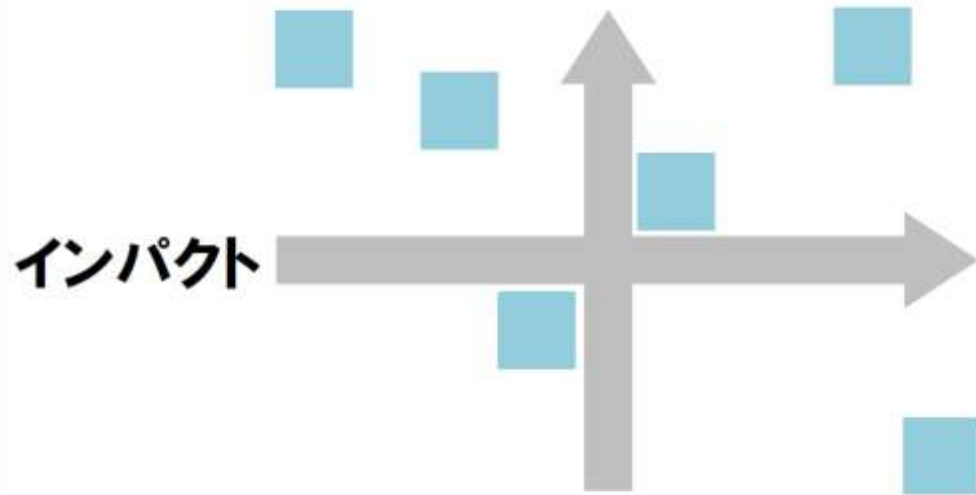
### 講座ではなく「場」として機能

## ポイント3

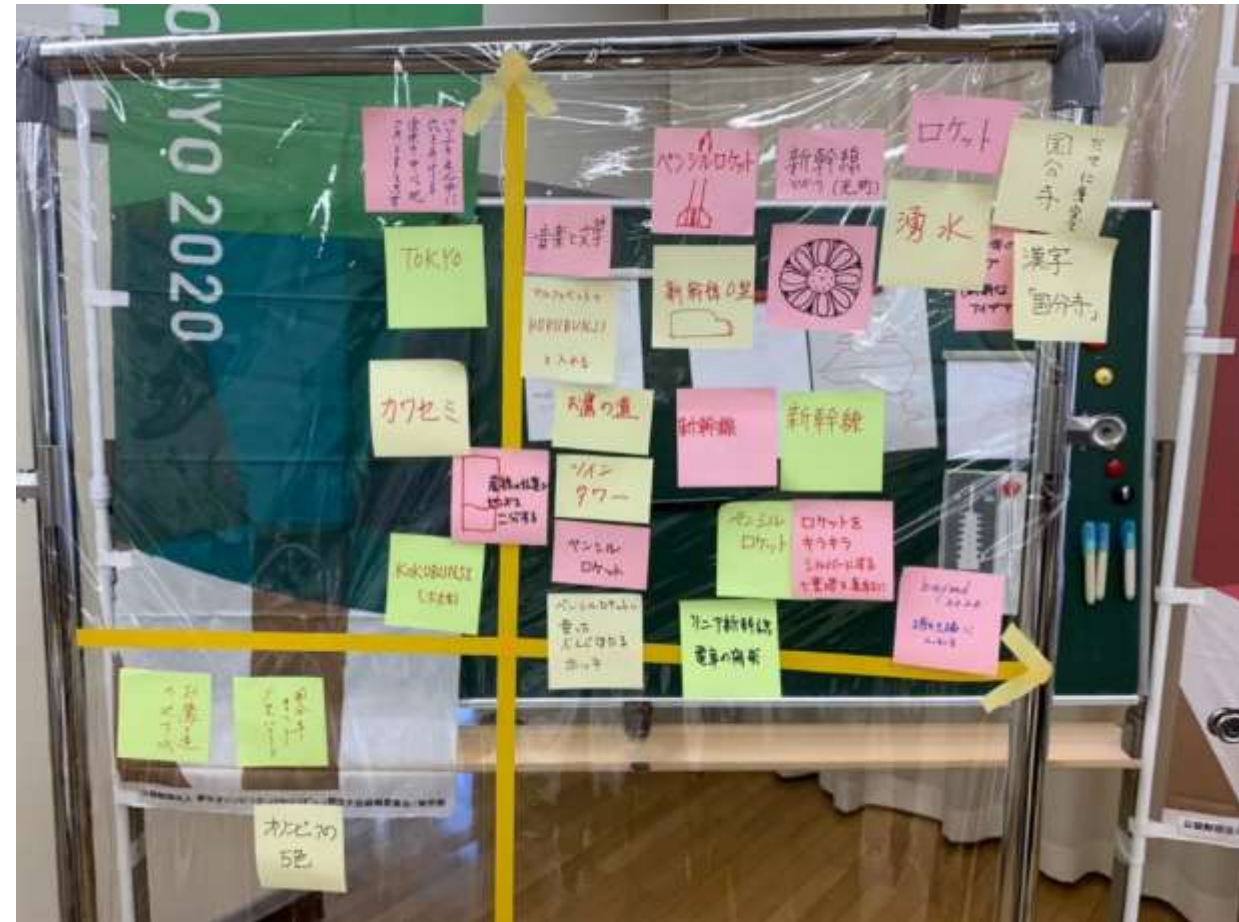
### 主体性を育むために「自分だけのマニュアル」をつくる

# 国分寺 ピンチをチャンスに！ 感染予防グッズを活用したワークシヨップ

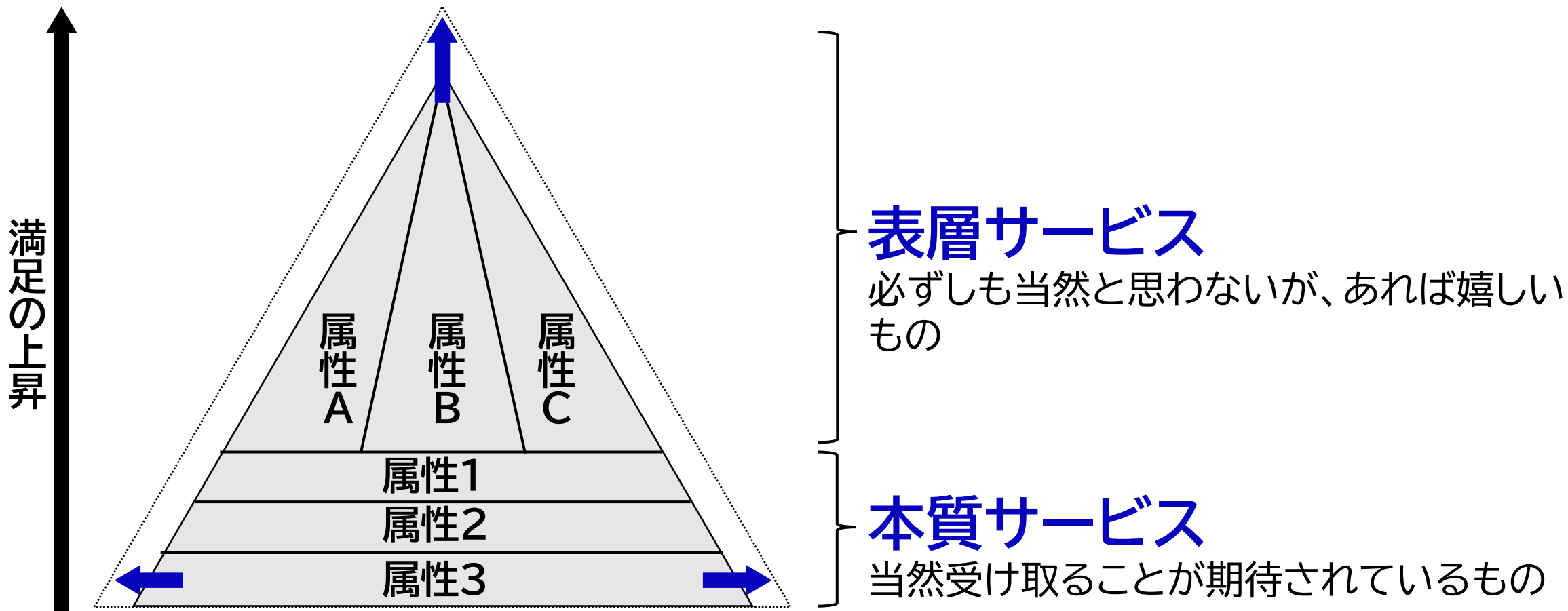
## ビニールシートへの貼り方①



矢印はレベル(高い・低い)



# 【参考】満足のピラミッド(「顧客満足型マーケティングの構図」より)



本質サービスの属性(属性1~3)は、欠けると不満を引き起こすが、強化しても満足度は上がらない。

表層サービスの属性(属性A~C)は、強化すれば満足度が一気に上がる。1つが卓越していれば、他の属性が悪くても全体の満足度を担保できる。

# 【参考】東京2020大会を例としたレガシーの曲線

